

# 善隣

No.520 通巻787

2021年（令和3年）11月1日発行（毎月1日発行）

2021 特別号  
(11月号)



一般社団法人 国際善隣協会

## 第10回定時社員総会（2021年6月25日）



# 善 隣 目 次 2021年特別号（11月号）

今後の善隣協会について

— 令和3年度上半期を振り返って……………矢野一彌 2

## 公開講演会記録

新型コロナからの伝言

— 破滅から再生への時代を迎えるために……………山川建夫 5

カーボンニュートラルを巡る中国、

アメリカの課題と今後の展開について……………曲曉光 12

日本の対中協力（第1部）……………八島継男 20

中国吉林省——長春・公主嶺・四平を訪ねて……………村田嘉明 28

**中国ウォッチング**……………編・訳 上松玲子 34

**陶々俳壇**……………馬場由紀子選 44

2021年度役員・顧問・諮問会委員名簿／常任委員会名簿…………… 47

協会通信・会員だより・同好会だより…………… 48

2021年11月の行事予定…………… 49

**みんなの写真館**…………… 48  
（姜晋如、新宅久夫）

**善 隣** 第520号 通巻787号

2021（令和3）年11月1日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5

一般社団法人 国際善隣協会

TEL 03（3573）3051

FAX 03（3573）1783

発行人 矢野一彌

編集 原田克子

編集協力 朝 浩之、校 正 福富和美

印刷所 （有）ゆにおんプレス

定価 一部400円 年額4,800円

振替 00120-0-145956

国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345

©禁無断転載

当協会は、中国ならびに近隣諸国との相互理解を深め、友好親善・交流を推進しています。

一般社団法人 国際善隣協会

# 今後の善隣協会について

## — 令和3年度上半期を振り返って

会長 矢野一彌

### ◇はじめに

令和3年度上半期は、「新型コロナウイルス」の猛威により、国際善隣協会もほとんどまともな活動ができないままはや秋本番を迎えようとしている。この間、会員および関係者の皆様には「活動自粛」をお願いし、格別なご協力を賜りましたこと、誠に有難く厚く御礼を申し上げます。そして9月の最終週に入り、「第5波」と名付けられたコロナ感染者が急速に減少し、10月1日から全国に発令されていた「緊急事態宣言」と「まん延防止等重点措置」がすべて解除されることになった。これを受けて当協会も「段階的に規制を解除していく」という基本方針のもと、今後の諸活動を進める。具体的な方

針は次のとおりである。

(1) 5階会議室、7階談話室の利用について

これまででは外部への貸し出しは原則的に停止していたが、以前から要望されている「謡曲」、「華道教室」、「俳句会」などの文化活動から、徐々に利用をしてもらうことにする。ただし、「検温」「マスクの着用」「手指消毒」「3密回避」などの感染症拡大防止対策はこれからも守ってもらうことをお願いする。

(2) 講演会の実施について

定着してきた「オンライン講演会」はこれからも続けることにするが、一部に機器の取り扱いが苦手で、かつ強く参加を希望される方のために

5階会議室の利用を認めることとする。

(3) 常任委員会および協会活動で5階会議室を利用する場合は、上記(1)の条件を守り「ソーシャルディスタンス」が確保される方法において実施する。

これらについては、今後見直しもあり得るが、皆様の「健康」と「安心・安全」を第1に考え、推進していく。

ここからは、令和3年度上半期の協会活動を振り返り、今後の協会の進むべき道について考えてみたいと思う。

1. 令和3年4月～5月

4月1日は囲碁の「一石会」などが催

され、今年度は順調にスタートしたが、やがて4月25日～5月11日まで「緊急事態宣言」が発令され、結果的にはこれが5月31日まで延長されることになった。

いわゆる「第4波」である。4月にはオンライン講演会が関係者による協力と各自が自宅から参加することで実現し、15日には「第1回オンライン講演会」として元フジテレビアナウンサーの山川建夫氏による「コロナと共に混迷の時代を生きて延びるために」と題して開催された。また4月28日には、「第2回オンライン講演会」としてNEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）省エネルギー部主査の曲光氏による「地球環境問題の解決」と題して、中国のカーボンニュートラルの取り組みなどを紹介してくれた。そして5月13日には「第3回オンライン講演会」として当協会の学術顧問であり、東京大学大学院法学政治学研究科教授の高原明生氏が「日米中関係の動向」と題して、バイデン政権と中国の関係、中国を取り巻く今後の国際関係を展望された。

この第4波およびその後の8月にピークを迎える第5波の期間は「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」が切れ目なく続き、協会の各委員会活動なども休止をお願いし、結果的に「善隣」誌は

3月から10月までの8か月間休刊することになった。発行人としてこの場をお借りし、深くお詫び申し上げる。

## 2. 令和3年6月～7月

6月25日（金曜日）午後2時30分から4時15分「第10回定時社員総会」を開催した。今年の社員総会は、「新型コロナウイルス感染症」に伴う緊急事態宣言の発令などにより、当初予定していた5月20日を6月25日に延期し、かつ行政側の指導（ソーシャルディスタンス等）に沿って出席人数を制限するなど、昨年 continué 2回目の異常な社員総会となった。本年3月末の正会員の在籍者数は154名、そのうち102名が出席（書面含む）し、決議事項4項目、報告事項3項目はすべて原案通り可決・承認された。

この社員総会の初めに会長挨拶で述べた私の言葉は次のとおりである。

① 「新型コロナウイルス」による影響はこれからも予断を許さず、今までの協会事業の在り方が根本から揺さぶられている状況の中で、テナント様からのご協力もいただきながら、これからの時代に即した協会運営を如何に

展開していくか、模索していきたい。  
② 本日の第3号、第4号議案にも関連するが、当面の人事については「現状ベース」を維持して進めていきたい。

③ 一昨年12月の理事会および昨年1月の新年互礼会で報告させていた「令和10年3月までにこの協会を閉じたい」と述べた件は、本日現在まだ理事会の中でも、「方向付け」ができていないので、まだまだ時間がかかると思うが、じっくり検討していきたい、というものである。

また、社員総会の質疑応答の中で、出席者から意見として提出され、議長から「今後の参考にさせていただく」とした内容は下記のとおりである。

① 協会閉鎖問題に関連して発言した会長の言葉の中に、「やるべきことはすべてやり終えた」という発言があるが、この善隣協会の目的（定款第3条）に照らしてみれば、まだまだやるべきことがたくさんある。

② 善隣会館の修理・保全に関して、この1年を見るとあまり大きな修理項目が見当たらないが、必要なものは思い切って修繕など実施すべきである。

③ 監事の役割は何かを、もっと考えてもらいたい。各委員会に1人ずつ入っているが、本当に必要なのか見直してもらいたい。

(以上の内容は「第10回定時社員総会」の議事録記載内容から引用した)。

この社員総会直後の理事会ではすでにご報告しているとおり私が会長に選任されたが、同時に常務会メンバーをこれまでの3人から2名増員し、このうちの1名は建築関係の専門家でもあり、建築後57年目を迎えた善隣会館の今後についての評価・分析・修繕計画検討などを所管することをお願いしているところである。

6月10日には「第4回オンライン講演会」として、慶應義塾大学SFC教授渡辺靖氏による「米国社会の現状とバイデン政権の展望」というテーマで米国社会の視点から内政や外交の今後について展望された。また7月15日には「第5回オンライン講演会」が開かれた。東京大学名誉教授の藤井省三氏による「魯迅と日本および世界文学―魯迅生誕140周年に寄せて」という演題で、魯迅文学と現代日本文学との深い関係を話された。

### 3. 令和3年8月～9月

8月は例年協会は夏休みとして活動はほぼ休みにしてきたが、本年は特に変異ウイルス「デルタ株」の流行で感染者が全国で急増した。そのような中でも講演委員会は家に閉じ込められた会員のために「第6回オンライン講演会」を開催した。8月12日に元金城学院大学教授の足立文彦氏による「日本の近代化とアジア：アセアン青年への講義」と題するもので、マレーシアのマハティール首相の下で青年研修の講師を務められた経験に基づき、日本の経験でアジアと関係のある側面やアジアの教訓になると思われる側面を話された。

9月には2つのオンライン講演会を開催した。

9月9日の「第7回オンライン講演会」で、元千葉大学学長の古在豊樹氏による「持続可能な人工光型植物工場の実現方法と社会貢献」と題するもので、世界の食料・資源・環境・生活の問題を同時並行的に解決する道筋を述べられた。

もう1つは、9月16日の「第8回オンライン講演会」で、慶應義塾大学名誉教授の小此木政夫氏による「日韓関係の現状と展望」と題するもので、対話が進ま

ない日韓関係の現状、その歴史的背景を踏まえた展望を話された。

### ◇今後の善隣協会について

当協会は前身の社団法人「満洲交友会」が国の認可を受けてから今年79年目を迎え、来年は80年目、人にたとえるならば、「傘寿」ということになる。本来であれば、何かおめでたいことをみんなで考えたいところだが、この「コロナ禍」の中では今のところは残念ながらそのような気分も醸成されていない。

私たちの原点は、「中国ならびに近隣諸国との相互理解・親善関係増進、また会員相互の研鑽・親睦」を基本理念としている。これらをよくかみ締めながら、会員の皆様の言葉に耳を傾けていきたいと思う。

皆様のご健康とご多幸を念じながら、令和3年上半年期のご報告に代えさせていただきます。

公開講演会記録

# 新型コロナからの伝言

## ―破滅から再生への時代を迎えるために―

元フジテレビアナウンサー、フリーアナウンサー 山川建夫



地球をわがもの顔で引っかき回してきた私たち現代人の前に、忽然と姿を現した「新型コロナ」。

恐れおののく現代人。その様子を眺めていて、新型コロナが現代人の写し鏡だと気付きました。新型コロナの中に自身姿を見ているのです。

新型コロナに写った自分の姿に恐れおののくのではなく、恐れおののいている己れの姿を徹底的に見つめ、何を恐れているのかを知る時です。

新型コロナは自分自身！

ならば自分自身を恐れ否定するのではなく、コロナを通して自分を認め、自分を丸ごと肯定し、大切にし、心底自分を愛する時です。全面的な自己肯定ができた時、コロナを受け入れ、コロナを通して

て自然とつながり、地球とひとつになれるのです。そうなった時、はじめて地球がコロナを通して伝えたかったことが腑に落ちるのです。

それは、地球のいのちと現代人のいのち、全てのいのちがつながっているという事実への気付き。地球上の全てのいのち、全ての存在が対等であり、お互いの存在が有機的につながって、地球という大きな生命体の中に生かされているという事実からもたらされる安堵感、充実感。

母なる惑星、地球の愛に包まれた喜びの時代を迎えるために遣わされた新型コロナに感謝です。さあ、新型コロナに導かれて、私たちにつながる全てのいのちが喜びにあふれる時代へ向けて、旅立ちましょう！

新型コロナが、ひとつの明確なメッセージを携えて、私たち現代人の前に現れました。

自然界と、人間界との「和解」です。昨年末、新型コロナウィルスに関しては、ありとあらゆるメディアから、実に様々な「情報」が発信されていました。この時代、どの情報が本当なのかよく分からなくなってしまうましたが、ひとつだけはっきりしているのは、新型コロナに対する私たち現代人の向き合い方です。

「コロナに打ち勝とう！ コロナに負けるな！ コロナを排除しろ！」。

まるで、新型コロナを地球から追い出すような勢いです。マスメディアからは連日、新型コロナによるとされる世界中

の感染者と死者の数が発表され、日々、上昇していきます。その上昇カーブとシンクロして新型コロナウイルスに対する不安も増し、いまや世界中がある種の鬱状態を呈しているように見えます。

言うまでもありませんが、ウイルスは自然界の一員であり、この地球では私たち人間よりはるかに大先輩です。ウイルスはその構造上、ほかの生きものの細胞に取り付いて増殖し、生き延びてきました。やがて、取り付いた生きものとの間に共存関係が成立し、お互いに共生してきました。人間もこれまで、数え切れないほどのウイルスによる洗礼を受けてきましたが、その都度生き延びてきました。「パンデミック」を起こす微生物に対する免疫力の獲得、感染症に一網打尽にされない生物多様性のお陰でした。

そうした自然界と人間界との関係性がこのところ急激に変わってきたのです。生態系と呼ばれる地球の生きもののネットワークの循環から人間だけが抜け出し、あるうことか自然界を支配しようとしたのです。地球の生態系の一員であることを忘れ、地球そのものを自分たち人間のものとして勘違いし、地球を搾取の対象として、掘り出し、削り取り、商品に変え、マネーに変えて、ひたすら経済を発

展させてきました。

その経済活動の過程で起こる土壌や水や大気の汚染を放置したまま、この地球上に暮らす様々な生きものも生存条件を損ない、毎年夥しい数の生きものたちが、永久にこの惑星から姿を消すところまで来てしまいました。

このたびの新型コロナウイルスに関しても様々なことが言われていますが、その中で比較的納得できそうなのが、野生動物由来説です。新型コロナウイルスは元々、オコウモリの体内で共生していたものが、何らかの原因で環境中に放出されたのではないかというものです。

1970年代からアフリカ中西部のコンゴ川流域で巨大開発が行われ、熱帯森林の年輪を重ねた大木が次々に薙ぎ倒されていく過程で、森の奥の洞窟の中にひっそりと生息していたオコウモリが棲み処を追われ、外の世界に現れた時、その体内に共存していた、後に新型コロナウイルスと呼ばれるウイルスも、環境中に放出されたと言われています。

1980年代に入り、京都大学の前の総長である山極壽一さんが、ゴリラの生態を研究するため現地調査をしている時、ジャングルの中で十数頭のゴリラの群れが折り重なるように死んでいた現場

に遭遇した際のレポートは鬼気迫るものがありました。その時のウイルスはエボラ出血熱と呼ばれるものでした。その後のSARS、MERS、そして今回の新型コロナウイルスに到るまで、呼吸器に取り付く感染症として続いているというのです。

この説が正しいとすれば、感染症は単独で発生するのではなく、人間界との相互作用の中で発生すると言えます。それまでウイルスたちが穏やかに生息していた環境を、人間の側の一方的な介入によって破壊したためだということになります。私たち現代人が、新型コロナウイルスによる一方的な被害者のように騒いでいますが、元をただせば、その原因は人間の側にあったのです。

この国のアイヌの方々のように、自然界に対する畏敬の念のもと、地球の循環の中で暮らしてきた先住民と言われる人々の真逆の、地球を自分たちの「資源」として切り刻み、掘り返してきた私たち現代人の目を覚ますために新型コロナウイルスは現れたのです。

もう、新型コロナウイルスと戦うのは止めましょう。新型コロナウイルスが所属する自然界と戦うのは止めましょう。それは、同じ自然界に属する人間自身と戦うことでもあるのですから。それが、自然界と人間と

の「和解」なのです。

新型コロナウイルス登場以前から、地球は私たち現代人の目を覚ますため、様々なメッセージを送り続けてきました。

自分自身のことでは、今から36年前に生まれ育った東京を離れ、房総丘陵の里山の麓に建った大正時代の古家と出会い、家族の食べるものを自給する暮らしに入ってから、米づくりのための田んぼ仕事を通して、定点観測的に自然をウォッチングしてきました。

その中で、田んぼを中心とした生きものの種類と数が見えて減少し、同時に、気候の急激な変化を目のあたりにして、それまでのアタマの中だけの地球環境の危機的な状況を、文字通り自分の全存在を通して実感したのです。そして、私たち現代人の地球に対する破壊的な関係性を直に変えなければいけないと痛感したのです。しかし、そうした切実な思いと現実の人間社会とのあまりのギャップに、しばしば絶望的な気持ちになったものでした。

そこで、起こったのが東日本大震災でした。地震、津波、原発事故。それまでの、自然に対する私たち現代人の破壊的な暮らしを根本的に改める大きなキッカケでした。でも、私たちは、それに気づ

きもせず、たちまちそれまでの物質に偏った現代文明の渦の中に引き戻されていきました。

折角の気付きのチャンスを失いかけた私たちに対して、自然界は、震災以降、異常気象と呼ばれる気候変動の激しさを増していきました。これまでの記録を覆すような「自然災害」が頻発するようになったのです。

2014年6月、旅の途中で立ち寄った北海道の支笏湖の山小屋に宿をお借りした晩のことです。日没から降り始めた雨が次第に激しさを増し、夜更けとともに、まるで屋根が抜け落ちてくるのではないかという激しさで、あたかも滝の真下にいるような轟音とともに打ちつけてきたのです。停電で真の闇の中、このまま雨が降り続いたらどうになってしまうだろうという、生まれて初めて経験する未知の不安の中で、まんじりともせず、夜を過ごしました。幸い、夜明けとともに雨脚も衰え始め、助かったと思いました。翌日、支笏湖周辺の道路は悉く水没し、何日も孤立する地区もありました。札幌市南区から支笏湖にかけての豪雨は、1時間に100ミリを超え、それが5時間も降り続いたのです。この経験のお陰で、その後、1時間雨量が100ミ

リを超えたというニュースに触れるたびに、その激しさをまさに実感として受け取れるようになりました。

この経験から、全国で発生する激しい豪雨にリアルに反応するようになり、その現場を自分の眼で確認しなければと思うようになりました。折りしも、支笏湖の豪雨から2か月後、広島市安佐南区から安佐北区にかけて集中豪雨があり、新興住宅地が丸ごと土石流に呑み込まれ、77名の住民がなくなるという自然災害が起こりました。ちょうどその日、大阪に滞在していたので、翌日、広島へ向かいました。その現場は、こんなところを宅地開発してよかったのかというほどの傾斜地でした。人災以外の何ものでもないと感じました。

翌、2015年9月の関東・東北豪雨。その翌々年、2017年7月の「九州北部豪雨」。福岡県朝倉市から大分県日田市にかけて、線状降水帯が駆け抜けました。12時間雨量、900ミリ！3時間雨量400ミリ！朝倉市の山の中に建つ廃校になった小学校を利用したアトスペースに何度か邪魔して、ある程度、地形が分かっていたので、後日、現地を訪れた時、余りの変わりように言葉が出ませんでした。自然のパワーの前に

ただただひれ伏すばかりでした。

東日本大震災の年には2つの大きな水害がありました。7月の「新潟・福島豪雨」。9月の「紀伊半島豪雨」。両方とも後日、現地を訪れることができました。前者は福島県金山町に行った時、只見線の鉄橋が押し流された現場を目のあたりにしました。後者は、奈良県から和歌山県にかけての水害。新宮市で1時間雨量130ミリを記録。熊野川の水位が20メートルにせまったこと。100人以上の方々が亡くなったことをあとで知りましたが、水害の翌年、田辺市から新宮市へ抜ける国道を走っている時、木々の先端に引っ掛かっているブルーシートをしばしば見掛けました。あんな高い所に何で？ と思いました。洪水当時の熊野川の水位を知って納得しました。

そして、その翌年2018年8月の「西日本豪雨」。愛媛県から広島、岡山県と、何本もの線状降水帯が西日本を通過していきました。その雨量は、平成最大の広域水害と呼ばれるほど、とてつもないものでしたが、その豪雨の供給源が、従来の太平洋上の水蒸気だけでなく、インド洋上の水蒸気が偏西風に乗り、南シナ海の水蒸気を巻き込んで梅雨前線上を北上して日本各地に到達したという話を

聞いて、地球の大気圏内の気温の上昇が、いよいよここまで来たかという地球規模の異変を感じたものでした。西日本豪雨の翌月、台風21号が関西を縦断。関西空港が水没し、空港へ渡る橋が流されてきた大型船との衝突によって、通行不能となりました。

翌年の2019年、これまで全国各地を回って豪雨の被災地を目のあたりにしてきた自分自身が、とうとう「被災者」になってしまいました。9月、房総半島を縦断した台風15号です。最大瞬間風速60メートルの直撃を受けたのです。午前2時過ぎからいよいよ激しくなってきた風雨。ゴーゴーと渦巻く台風の中から打ち出された石の塊のような衝撃。我が家に覆いかぶさるように張り出した人間の太腿ほどの木の枝をへし折りながら、60メートルの猛烈な風が、何度も屋根を打ちつけ、とうとう、自分で建て増した6畳の部屋の屋根を一瞬のうちに剥ぎ取っていったのです。直後に大量の雨。その真下に寝ていたため、あつという間にズブ濡れとなり、停電で真っ暗な闇の中、布団を引きずって母屋へと避難しました。この上、母屋の屋根が飛ばされたらと一瞬、心配が過ぎりましたが、最後は観念してこの成り行きにまかせるしか

ありませんでした。この台風で風速60メートルを経験することになりました。もちろん自分にとって未知の体験でしたが、支笏湖での体験と合わせて、自然を知るには本当に良い経験となりました。台風15号の翌月、台風19号が房総半島に接近しました。再び直撃を受けたら応急処置の屋根が飛ばされるのは確実。何とか避けてほしいと願っていたら、隣の伊豆半島に上陸。千曲川水系の洪水で長野新幹線車両が水没。その後、北上して阿武隈川水系でもこれまでにない大規模な洪水が発生しました。

自分の住む千葉県も、19号とその後の21号台風でも各地で洪水が発生。千葉県は災害から守られているというこれまでの「神話」が吹き飛びました。そして、昨年、7月の熊本県球磨川水系での洪水。これだけ立て続けに繰り返される自然災害を前にして、この国の住人である私たちは、新型コロナ同様、自分たちが一方的な被害者であるという被害感情を強めてきました。でも、新型コロナによるパンデミックが、実は人間の側が引き起こしていたように、度重なる自然災害も、その原因を作っていたのが、ほかならない私たち現代人であることを気付かせようと、地球が送っていた「メッセージ」

ジ」だと悟らなければなりません。

自分がそう感じるようになったのは、房総丘陵に移住してからの農作業体験からでした。1990年代に入ってから次第に気候が不安定になる中で、それまでに経験したことのない気候現象が起こるようになりました。

ひと月近く全く雨が降らず、田んぼの水が干上がり、田の底がヒビ割れて稲が枯れそうになったり、逆に、ひと月分の雨が一度に降って、田んぼからあふれ出し、畔が決壊してしまったり、天日干ししていた稲束が、あまりの長雨に、とうとう芽が出てしまったりと、気候が目まぐるしく変化する中で、ずい分、気を揉むようなことが多くなりました。

ところが、それまで天候のせいにしてきたのが、ある時から、こうした現象は実は地球からの「メッセージ」ではないかと思うようになったのです。そう思うようになってから、自分の周りで見られる様々な自然現象を受け入れることができるようになったのです。

年々厳しさを増す夏の暑さ。ここ数年、暑さの厳しい時には、頭から水を被って何とか凌いできましたが、人間以外の生きものたちも、みんなこの暑さをともに受けて苦しんでいると感じるよ

うになりました。もちろん我が母なる地球も！

人間社会では熱中症の危険を繰り返して警告していますが、その人間が母なる地球を熱中症に罹らせてしまったのです。産業革命後の200年、なかなかずく、グローバル経済が世界中をマーケットにしようとしてきたここ数十年の間、私たち人間は、地球が数億年かけて地底に蓄積してきた動物や植物などの死体の堆積物を見境もなく掘り出し、燃やし続け、あっという間に使い切ろうとしているのです。

その間、大気圏内の温度が一気に上昇し、その余分な熱を宇宙空間に排出して大気中のバランスを保とうとしていた地球の浄化能力を超えてしまったのです。

地球は私たちに熱の放出を控え、大気圏内の穏やかなバランスを取り戻すよう訴えています。自分の周りだけエアコンという文明の利器を使って「快適」な環境をつくり、凌ぐこうとするわたしたちに、母なる地球は、生態系の全ての生きものに目を向けるよう訴えています。

熱中症に罹った地球を治療するには、人間の熱中症と同じように、まずは安静にして、新たな熱の供給を断ち、冷やすこと。それには地球を熱している人間活

動にブレーキをかけることです。そして、地球のバランスが回復するところまで、人間活動をクールダウンしていくことです。

それがまさに、新型コロナによって実現したのです。新型コロナ感染拡大を防ぐため、世界中の人々が家に籠もりました。その結果、あっという間に地球環境が改善されました。

北インドのある都市では、半世紀ほどの間、分厚いスモッグで見ることのできなかったヒマラヤ山脈が、突然姿を現したのです。人間活動が停止したため大気が浄化されたのです。忽然と現れた純白の輝くヒマラヤ山脈に街の人々は息を呑み、思わず手を合わせたということでした。街の人々に「自然感覚」がよみがえったのです。

こうした自然の浄化は、おそらく世界中で起こっていたと思われます。そして、多くの人々に気付きを与えたことでしょ。でも、既成社会の支配者は、以前の経済成長路線に引き戻そうと躍起になっています。その一方、新型コロナのパンデミックの中で、人間社会は「いのち」か「マネー」かの二者択一を迫られています。皮肉なことに私たちは、マネーの社会へ重心を移すたびに感染が拡大する

というジレンマに陥っているのです。

「いのち」を選びなさい！ と新型コロナウイルスは教えています。そして、私たちに、大地にしっかりと根を張り、自然に根差した自給自足的な暮らしに戻って、もう一度やり直しなさいと諭しています。その声がはっきりと聞こえてきます。今から36年前、東京を離れ、自然の中で農的な暮らしを始めたお陰です。その暮らしを通して、失いかけていた「自然感覚」を少しずつ取り戻すことができるようになりました。

そして、ようやく「地球の声」が聞こえるようになってきたのです。

その「地球の声」です。

「私はあなた方、人間のことをずっと気に掛けていました。ことにここ50年、60年の間、あなた方あまりに自然界のバランスを無視した活動によって、あなた方以外の生きものたちがどんなに辛い思いをしてきたことか。自然環境の急激な変化に晒され、それについていけなかったたくさんの仲間たちが、この惑星から姿を消していきました。もう私たち地球の生きものを辛い目に合わせることはやめてください！」

横暴な振る舞いを止めないあなた方人間を、地球から排除することは簡単で

す。そうした声がたくさん聞こえてきました。でも、私たち地球は、あなた方人間が自己の行き過ぎた活動を改めることによって、この惑星が平和で、喜びにあふれた時代を迎えることができるよう見守っているのです。

地球に意識を向けてください。地球と波動を合わせてください。地球とひとつになってください。あなた方のご先祖たちがそうしていたように。地球と一体化すれば、あなた方人間は、全てに満たされた存在となれます。孤独や孤立に悩むことなど全くありません。これまでのように「幸せ」を求めて動き回ることはもう必要ありません。だってあなたはすでに完璧なのですから！ あなた方はあらゆるものから自立した、真に自由な存在です。この宇宙でたったひとつの、何ものにもかえ難い素晴らしい存在なのです。あなた方がいつとき、欲に目が眩んで突き進んできた結果、あなた方の次の世代の未来を奪うところまで来てしまっていたのです。危機一髪。危ないところでした。私が遣わした「新型コロナウイルス」を通して、そのことに気付いて本当に良かった！ これからは新型コロナウイルスも含めて、地球のあらゆる生きものたちと仲良くしあわせに暮らしてってください。新型

コロナウイルスも、あなた方が再生してくれた豊かな自然に帰ることができます。地球の波動にシンクロした新しい「いのちの時代」へ向けて、一緒に歩んでいきましよう！」

我が母なる惑星、地球さんは、私たち現代人が直面している地球レベルの危機に気付いて、その危機を乗り越えるための暮らしに転換していくことを望んでいます。私たちが、新型コロナウイルスからの伝言に気付けなかったら、地球はもっと強烈な「メッセージ」を送ってくることは間違いないです。大脳皮質の上っ面だけを使って、情報社会にどっぷり浸かったままの私たち現代人を震撼させるような！ 生きものとしてのリアリティを一気に取り戻すためのハードなメッセージを！

多分、それは「食べ物」だと思います。気候変動がますます激しくなって、食べ物が増えなくなるような事態です。そうした事態を招かなくてもよいよう、自然界に対する破壊的な介入を即刻止め、人間が壊し汚した自然を再生し、生命の循環が元に戻る方向へ私たち現代人の暮らしを転換していけばよいのです。その時、自ずと私たちの暮らしのスタイルが決まってきます。この国がかつて2

60年にわたって続けていた完璧な物質循環の暮らし。そう、江戸時代です。幕末、当時の人々は欧米列強に伍するため、奇跡のような循環型社会を放棄してしまいました。それを復活するのです。当時に比べ圧倒的に「進化」したテクノロジーを、その復活のために使うのです。より少ないモノと、より少ないエネルギーを大切に使う。複雑な方向に針が振り切れた現代社会から、人間の身の丈に合った、質素な、でも最大限しあわせな日常。衣・食・住・エネルギーを地元で自給できる暮らし。自立した地域の中を大切なツールとして回るおカネ。人と人、人と自然とが気持ちよくつながった地域社会。

シンプルスイズベスト！

スモールイズビューティフル！

そうした新しい社会を迎えるために、この荒み切ったマネー社会を終わりにしましょう。どちらにしてもこの社会は自己崩壊していくのですが、次の時代を担う若者たちが、なるべく苦労しないよう、混乱の極みに達する前に、大人の世代が気付いて、若者たちと共に、次の「いのちの時代」を迎える準備（物質的なレベルより心のレベル）に取り掛かれら素晴らしいです。

そのための第一歩が、自分の波動を地球の波動に合わせる。スピリチャル系の人が良く口にする「アセンション」。今、地球が次元上昇をしていて、その波動の変化についていけない人から先に取り残されていく、という話です。なんだからスピリチャル系の人たちだけが生き残れるというニュアンスですが、心配無用です。難しいことは分からなくても、人間以外の全ての生きものがそうしているように、ただただ、地球の波動に自分の波動を合わせる、というよりも、完全に自立した、自由な存在でいられれば、自己の枠を超え、自分を包む世界、地球とひとつになれるのです。地球と一体であれば、地球がどんなに変わろうとも何の問題もありません。合わせようと思えなくてよいのです。そのままよいのです。そうしていれば、自分にとって本当に必要なものが見えてきます。あとはそれを大切にしていだけ。自分の「いのち」にひたすら向き合ってください。

最後にワクチンについて。

新型コロナには当初から、今いちリアリティを感じられないところがありました。ワクチンについても同様です。私たち現代人を新型コロナウィルス感染症のパンデミックのループに引きずり込みな

がら、不安と恐怖を煽り、ワクチン接種へ追い込んでいく。発生する膨大な利権。人間の歴史で最大の実験が行われています。その一方で、ワクチンの副作用を恐れる人もたくさんいます。打つべきか？ 打たざるべきか？ どちらが安心できるのか？

自分自身に関して言えば、ワクチンは打ちません。もし、感染したらコロナと一緒に「経過」を味わいます。コロナがこちらの体を出ていくまで。自然の成り行きに全てを任せるだけです。新型コロナに限らず、この混沌の時代を生きいくには「覚悟」が必要です。それさえしっかりしていれば、何が起ころうと右往左往することはありません。大地にしっかり足を着け、全てを地球に委ねるだけです。

（2021年4月15日・オンライン講演会）

筆者略歴（やまかわ ゆきお）

1943年東京生まれ。1985年フジテレビを退社後、自然の中で暮らしたいという夢の実現のため都会での全てを捨て、南房総の里山の麓の古い民家に落ち着く。

## 公開講演会記録

## カーボンニュートラルを巡る中国、アメリカの課題と今後の展開について

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 省エネルギー部 主査

曲 暁 光



## はじめに

中国とアメリカが世界の1位、2位の温室効果ガス（GHG）の排出国であり、それぞれ世界排出量約26%と15%を占めております。第3位のインドが約7%で、中国、アメリカ両国は圧倒的に排出量が多いことが分かります。

昨年中国政府が2060年にカーボンニュートラル、2030年にエミッション・ピークを目標として打ち出しました。本年1月、バイデン氏が大統領令になった初日に、パリ協定復帰の大統領令に署名し、2050年にカーボンニュートラルを実現させると宣言し、さらに本年4月22日「地球の日（Earth Day）」に行わ

れたオンラインの気候変動サミットの際、2030年にCO2排出量を50〜52%削減するという野心的な目標を表明しました。

地球温暖化対策を表現する言葉としては、CO2ゼロ・エミッション、ネットゼロ・エミッション、脱炭素（decarbonization）等様々な表現が使われていますが、近年カーボンニュートラルという言葉が登場しました。イギリス、フランス等EUがカーボンニュートラルより、カーボンニュートラリティーを多用しています。カーボンニュートラルとは化石燃料全廃を意味しておらず、化石燃料の利用に伴うGHG排出量を最大限に削減できるものの、現時点では将来も化石燃料をすべて廃止することが見込めません。

しかしながら、CO2を吸収する効果がある植林（森林吸収源 sink）、湿地とマングローブ等の造成・復元、自然再生を行うとともに、排出されるCO2の分離・回収・利用・貯留（CCUS）を実施することにより、実質的にCO2排出を相殺し、排出ゼロにすることが実現できます。

森林吸収源（sink）については、ここ数十年、中国の森林面積が大幅に増加し、陸地面積に占める森林の割合が10%と増えており、新規造成の森林面積が世界最大となっています。一方、アメリカ西海岸のカリフォルニア州、オレゴン州等で近年毎年大規模な山火事が発生し、多くの森林が焼失しています。

CCUSに関しては、主に火力発電所

等からCO<sub>2</sub>を分離・回収し、地中の帯水層または多孔質岩に注入します。回収されたCO<sub>2</sub>を一部高純度化し、化学原料として利用します。地中貯留後のリークおよび回収コストが大きな課題であります。特に、日本のような地震が多い国では、CO<sub>2</sub>貯留の適地が少なく、CCUSに向いていないとされます。また、現在、直接に空気中のCO<sub>2</sub>を捕集し、地中に貯留するDAC (Direct Air Capture) は次世代のNET (Negative Emission Technology) として注目されています。アイスランドでは地熱発電を用いて、年間CO<sub>2</sub>回収量が4000トに達する世界最大規模のDACプラントを建設しています。ただし、DACのCO<sub>2</sub>回収量が少なく、回収コストも600〜800ドル/トとCCUSよりも遙かに高いと指摘されています。

## 1. 気候変動問題に関するこれまでのマイルドストーン

これまで地球温暖化対策については、国連気候変動枠組条約締約国会議(COP)等を通じて、様々な議論がなされてきました。これまでの主な出来事を簡単に整理します。

まず、1992年、ブラジルのリオデジャネイロで「地球サミット」が行われて、「sustainable development」(持続的な発展)という新しい概念が定着しました。中国政府がこの「持続的な発展」を産業政策ではなく、科学技術政策の一環として科学技術部下の「アジェンダー21センター」という新しい組織を作り、経済開発と環境問題の両立に関する研究を始めました。

1997年、国連気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)が京都で開催され、日本のリーダーシップで「京都議定書」が締結されました。議定書では初めて先進国を対象にGHGの削減目標を設定し、具体的な達成手段も明確化しました。2008年〜2012年の第1約束期間中に、1990年を基準年に日、米、欧がそれぞれGHG排出量を6%、7%、8%削減すると規定されています。

また、「京都議定書」におけるGHG排出削減については、先進国は「共通だが差異ある責任」という排出削減の義務を負うものの、途上国はボランタリーベースで取り組むと明記されています。先進国から途上国へのGHG削減の技術移転を促すためのクリーン・開発メカニズム(CDM)が導入されたのです。アメリカ

は京都会議に参加しましたが、議会が「京都議定書」を批准しませんでした。2015年、パリでCOP21が開催され、中国、アメリカが協力し、「パリ協定」が結ばれました。同協定には産業革命後の温度上昇を2℃以内に抑えるべく、各国に目標達成のための取り組み強化を促しています。

## 2. エネルギー消費構造とCO<sub>2</sub>排出源の主要セクター別の米中比較

地球温暖化の大半は化石燃料の利用に起因します。中国、アメリカの1次エネルギーの消費構造を比較してみます。中国は石炭が全体の58%と最も多いのに対して、天然ガスは全体の8%しかありません。アメリカは天然ガスが全体の32%と2番目に多く、石炭は11%とかなり少ないです。

化石燃料のうち、天然ガスが燃焼時CO<sub>2</sub>排出量が最も少なく、石炭の半分強となります。CO<sub>2</sub>排出係数は以下の通り。

|                   |             |
|-------------------|-------------|
| 石炭                | 炭：820ト/Gwh  |
| 石油                | 油：720ト/Gwh  |
| 天然ガス              | ガス：420ト/Gwh |
| 石油を入れると、米中両国とも化石燃 |             |

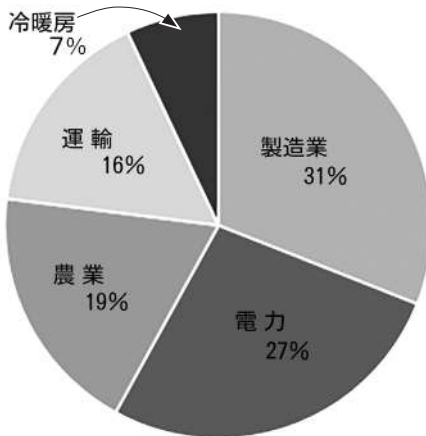
料が大半占めています。中国よりアメリカのほうが天然ガスの消費比率が高く、石炭消費の比率が低く、比較的バランスが取れています。

水圧破砕法 (hydraulic fracturing または fracking) というコストが低く、高効率なシェールガス開発技術の確立をきっかけに、アメリカ国内でシェールガスの開発が急速に進むとともに、石炭の消費量が著しく減りました。ペンシルバニア州西部は「アメリカのサウジアラビア」と言われます。この天然ガスの利用拡大と同時に、ここ数年ニューヨーク州を中心とするニューヨーク州地方とカリフォルニア州等では地球温暖化、地下水への汚染等で天然ガス利用を規制または禁止する「脱天然ガス」の動きも活発化しています。例えば、ニューヨーク州では天然ガスパイプラインの新設を事実上凍結する、カリフォルニア州バークレー市では全米で初めて天然ガス利用を禁止するといった施策が見られています。このように、アメリカでは「天然ガス利用拡大」とそれに相反する「脱天然ガス」の2つの流れが同時に現れています。一方、中国では天然ガスを「クリーンな燃料」として政府主導で石炭からの天然ガスへの転換「脱石炭」を進めています。

GHGの排出源は主に、「製造業 (Making things) (31%)」、「電力」(27%)、「農業 (Growing things) (19%)」、「運輸」(16%)、「冷暖房 (Temperature regulation)\* (7%)」という5つのセクターに集中しています。この5つのセクターについては、米中を比較し、現状と課題を説明したいと思います。

※冷暖房以外には、冷蔵庫、冷凍庫も含まれています。

世界のセクター別 CO2 排出構造



## 2-1 製造業 (Making things) について

製造業がCO2最大の排出源であり、全体の31%を占めています。2018年

の世界貿易のうち、中国が世界最大の輸出国で世界輸出货量の約13・5%を占めており、アメリカは9%未満です。しかも、中国から海外へ輸出される商品は基本的にモノであり、サービスの割合が非常に低いです。

一方、アメリカから世界への輸出は少なくなりつつあり、しかも輸出品のうち、サービスの割合が高いです。中国は2001年、WTOに加盟した後、世界製造業のハブとしてサプライ・チェーンの3割までシェアを伸ばしています。

アメリカではアップルの「designed in California, assembled in China」というビジネスモデルが代表するように、ファブレス、製造現場の海外移転 (off-shore) が進み、製造業の衰退が加速しています。オバマ元大統領、トランプ前大統領は reshore (製造業のアメリカへの回帰) を推進してきましたが、今のところほとんど効果が見られません。他方、エネルギー多消費産業と言われる鉄、セメント産業は中国が世界シェアの半分を占めています。また、近年石炭化学という産業が大きく発展しています。石炭が燃料だけではなく、化学原料として利用され、様々な化学製品が作られています。今後、中国がいかに製造業分野の

低炭素化、脱炭素化を実現させるかは非常に重要であります。

## 2-2 電力

### (1) 発電

中国の場合は、水力発電を含む再生可能エネルギー（再エネ）と原子力のカーボンフリーな電源が全体の45%程度であるのに対して、アメリカは再エネの比率が低いものの、原子力が中国より多く、カーボンフリー

な電源が全体の約4割を占めています。両者間には大きな差がありますが、中国は石炭火力をかなり減らしてきていますが、まだ全体50%弱を占めています。アメリカはここ数年石炭火力を大幅に減らし、天然ガス発電

| 電源         | 中国   | 米国   |
|------------|------|------|
| 再エネ（水力を含む） | 42.4 | 17.6 |
| 天然ガス火力     | 7    | 38.4 |
| 石炭火力       | 49.8 | 23.4 |
| 原子力        | 2.4  | 19.6 |

に切り替えています。今後、電源のカーボンニュートラルに向けて、中国、アメリカはそれぞれ「脱石炭」「脱天然ガス」が大きな課題となっています。

中国は太陽光発電（P.V）、風力の生産量と導入量が両方とも世界1位を占めています。P.Vについて、米国にはP.V工事会社が多数あるものの、国内でP.Vはほとんど生産されず、大半は中国からの輸入に頼っているのが現状であります。風力についても、中国の生産量・導入量は世界一であり、陸上風力以外には洋上風力発電（off-shore windfarm）も英国に次いで2番目です。今年英国を超え、1位になると予想されています。バイデン政権の新しいインフラ整備計画は東海岸で大規模な洋上風力発電の開発を計画しています。

### (2) 送配電

送配電については、特に長距離送電の場合は、送電容量と送電ロスが大きな課題となっています。電力セクターの脱炭素を実現させるために、グリーン電源だけではなく、送配電網の整備も合わせて実施することが必要とされます。

2004、2005年から、中国は世界最高圧の送電網整備を開始し、現在、

世界最長圧、最長の長距離送電網を作り上げています。2020年時点総延長は30000キロに達し、西部、内陸部における再生可能エネルギー発電の電気は東部需要地へ安定的かつ大量で遠距離の送電が可能となります。

一方、アメリカカリフォルニア州の法律では送電鉄塔が65年の寿命と定められているものの、実際は同州の電力インフラの多くが1950年代初期のアイゼンハワー大統領時代に作られており、その後ほとんど更新されていません。2020年夏には高温で古い電線の火花が発生したことにより、大規模な山火事が起き、多くの建物が焼失し、長期間の大停電も発生しました。近年、気候変動はカリフォルニア州の高温と干ばつを引き起こすとともに、高温と干ばつに起因する送配電施設の発火・火事が停電をもたらすという悪循環が生じています。

また、アメリカ国内には東部、西部、とテキサス州の3つの広域の電力グリッドがあります。テキサス州のグリッドだけが独立し、他の2つの電力系統に連係していないため、緊急時に他の電力系統から電力供給を受けるという融通が利きません。先月、テキサス州は未曾有の寒波に襲われ、発電所、送電線とも不具合

大規模停電が発生したものの、系統連係の未整備により、長期間の大規模停電を余儀なくされました。その結果、州内複数の電力会社は会社更生法を申請しました。

このアメリカの脆弱な送配電網を強化し、脱炭素を実現させるために、今後10年〜20年、日本のGDP規模相当の4・5兆ドルに上る巨額な長期投資が必要と試算されています。この長期に亘る計画的な大規模投資ができるかどうかはアメリカのカーボンニュートラルの行方を大きく左右します。

## 2-c 農業 (Growing things)

農業からのGHG排出は農業機械と肥料生産のためのエネルギー消費に一部起因しますが、メタン成分がたくさん含まれている畜産排水が最大の排出源となっています。

また、中国スターアップ (Hey Meat)、星期零 (Starfield) が植物由来肉の商品化に成功しました。今後、中国の肉消費の半分を植物由来に転換する場合、10億ト/年以上のGHG削減効果があると試算されています (日本のCO<sub>2</sub>排出量は約12億ト/年)。

アメリカは世界最大の農産品生産国、

中国：肉消費量の急増が最大の特徴。経済成長に伴う食生活の高度化。世界の豚肉消費量の約半分

|                     |        |
|---------------------|--------|
| 1人当たり肉消費量の推移：1960年代 | 5kg/年  |
| 1980年代              | 20kg/年 |
| 現在                  | 63kg/年 |

を開始します。

今後、植物由来の代替肉の量産技術を確立させることは重要であります。中国でその消費拡大を左右する最大の要因は「味」であります。中華料理に適した中国人好みの植物由来の代替肉は中国人の味覚を満足させるだけでなく、地球温暖化防止にも大きく貢献します。

## 2-4 運輸

運輸部門のCO<sub>2</sub>排出源は自動車、航空機、船舶等が中心となっています。

輸出国として世界初の植物由来の代替肉を開発し、米国製代替肉製品の一部中国市場に輸出され、中国のファーストフード店には植物由来の肉が使用されたハンバーガーが販売されています。本年4月、米Beyond Meat社が中国浙江省で工場開設を発表し、本格的に中国市場に特化した植物由来の代替肉の開発と現地生産

空機は世界のCO<sub>2</sub>排出量の2%〜2・5%を占め、脱炭素としてはバイオ燃料の導入が最も有望視されています。アメリカのLanzaTech社が米国内にAlcohol-to-Jet (AtJ) というアルコールのジェット燃料化の開発に成功しました。また、同社は製鉄所で発生する燃焼ガスからエタノールを精製・ジェット燃料化する技術を確立させ、上海宝山鋼鉄と合併で、中国でエタノールのジェット燃料プラントを建設し、商業運転を展開しています。船舶については、中国ではすでにバッテリー搭載の船が試験運用されているもの

| 国、地域 | 販売台数(2020 年) |
|------|--------------|
| EU   | 1,390, 000   |
| 中国   | 1,330, 000   |
| 米国   | 328,000      |
| 日本   | 31,000       |
| 韓国   | 52,000       |
| 世界合計 | 3,240,000    |

の、実用化の見通しが不透明です。

運輸部門における最大のCO<sub>2</sub>排出源は自動車であり、ガソリン車から水素燃料自動車、電気自動車（EV）への転換が自動車の脱炭素のカギを握っています。現在、中国とアメリカがEVの開発、導入拡大に熾烈な競争を展開しています。2020年、中国とEUが世界のEV市場の大半を占めていますが、アメリカのEV販売台数は中国の4分の1程度にとどまっています。2021年第1四半期の中国のEV販売台数は20万台以上となり、通年の販売台数が日本年間新車販売台数の半分に相当する250万台に上ると予想されています。また、中国製の電気バスは世界市場を制覇し、市場シェアが驚異の98%まで占めています。

また、2020年時点のEV充電施設数については、中国が約50万か所あるのに対して、アメリカは中国の5分の1程度の10万か所となっています。EV充電を補給する手段として、中国開発のバッテリー交換ステーション（Battery Swap Station）は数分間でバッテリー交換が完了できる完全自動化の技術が確立されています。現在、国有石油会社のガソリンスタンドに併設され、本格的に普及し始めています。今後、EVの充電、バッ

テリー交換がガソリンの給油と同様に便利になることで、EV導入が爆発的に拡大されると見込まれます。

## 2-5 冷暖房（Temperature regulation）

中国、アメリカとも暖房供給が必要とされる地域においては、暖房が冷房を上回り、家庭内でエネルギー消費量が最も多く、しかもその大半は電気を熱源としていません。オール電化は米中の共通課題となっています。

中国では、長江以北では通常専用の配管を用いて、熱供給所が作った蒸気を各家庭に送る集中暖房が行われます。小規模な原子力による熱供給またはオール電化が暖房の脱炭素に有効である一方、長期に亘り、計画的に膨大な既設の熱供給インフラを廃止することが必要とされます。

アメリカでは、1戸建て住宅が多く、天然ガスを暖房の熱源とする住宅が主流です。建物寿命が長く、新築が少なく、既存住宅のオール電化に必要な家庭内のインフラが整っていない、必要なスペースが確保できない、コストを負担できない（または嫌がる）という課題が山積しています。現時点ではそのいずれも解決の見通しが立ちません。

## 3. 気候変動分野における米中協力の展望

中国では2020年、政府が発表した2060年のCarbon Neutralを踏まえて、分野別に本格的に取り組み強化を開始しました。太陽光発電、風力、EV等脱炭素技術の優位性への自信から国際協調にもオープンな姿勢を示しました。

一方、本年3月3日、プリンケン米國務長官が初めてバイデン政権の外交方針演説を行った際、中国との関係について「アメリカと中国の関係は、必要な時は競争的、可能な時は協力的、必須な時は敵対的になる（Our relationship with China will be competitive when it should be, collaborative when it can be, and adversarial when it must be）」と述べました。この「should be, can be, must be」演説から気候変動分野が「競争関係（competitive）と協力関係（collaborative）」に該当すると推察されます。しかしながら、気候変動問題は単なる地球環境問題でなく、貿易政策、外交政策、安全保障政策等の要素が全て含まれているため、米中の戦略的な対立の新たなテーマになる可能性すらあると考えら

れます。したがって、この米中間の気候変動協力がこの競争関係 (competitive) と敵対関係 (adversarial) の間で揺れ動く可能性が否定できません。

### 3-1 米中の気候変動協力をめぐる3つのリスク要因

今後、気候変動の米中協力はこの地球規模の課題解決に必要不可欠であります。米中協力は主に米国側の対中スタンス、国内事情で一進一退すると見られます。具体的なりリスク要因は主に地政学的な対立、米国政治の二極化 (polarization)、米中の経済競争の激化を挙げることができます。

#### (1) 地政学的な対立

現在の米中の地政学的な対立はイデオロギーではなく、米国経済の支配的な地位の相対的な低下に起因すると考えられます。将来、米中間に新しいパワーバランスが確定されるまでに、米中の地政学的な対立はエスカレートすると思われます。

アメリカ国内で米中分断 (decoupling) を唱える論調がしばしば見られます。完全もしくは部分的な米中分断 (decoupling) の影響は2国間にとどまらず、世界全体に計り知れないほど広範囲な影響を及ぼ

します。気候変動の国際協調、目標達成が一層困難になります。特に、既存の国際貿易の仕組み、サプライ・チェーンの破壊をもたらすことにより、国家間の自由な脱炭素の技術移転、途上国への支援にも被害甚大です。現在、米中両国ともこの米中分断 (decoupling) の衝撃を吸収できるほどの国力を持っているとは思えません。

#### (2) 米国内政治の polarization

これまで共和党の反対による米議会での「京都議定書」未批准、トランプ政権の「パリ協定」離脱に見られたように、気候変動問題に対する共和党反対、民主党支持という米国内政治の二極化 (polarization) の一環として完全に政治問題化 (politicization) しています。米議会約130名の共和党現職議員が公然と気候変動問題を否定または疑問視しています。

また、共和党の牙城テキサス州のヒューストンではアメリカの「エナジー・キャピタル」と言われるほど同州内には世界を代表する石油メジャー Exxon Mobil を含む多数の大手石油・天然ガス企業のヘッドクォーターであります。先述したシェールガス開発が盛んに行われているペンシ

ルバニア州が近年の大統領選のカギを握る「勝敗のカギを握る激戦州 (Swing State)」の1つとなっています。これらのエネルギー企業から支持を取り付けることは共和党の政権奪取に死活的に重要であることは言うまでもありません。

本年3月31日、バイデン大統領が発表した2・25兆ドルに上る再生可能エネルギー、EV導入拡大を含むインフラ整備プラン (The America Jobs Plan) に対して、共和党から原案予算額を4分の1に減額し、内容も大幅に縮小された対案が提示され、議会内で激しい駆け引きが展開されています。

#### (3) 米中の経済競争の激化

脱炭素分野が21世紀米中経済競争の勝敗を決める最大テーマの1つとなります。中国は脱炭素技術として太陽光発電 (PV)、太陽熱発電、風力等再生可能エネルギー、EV、バッテリー等において世界をリードしています。

脱炭素技術の導入に遅れを取っているアメリカが市場奪還に躍起になっています。一方、脱炭素は地球問題でありながら、経済活動の一環として一国の経済政策のみならず、安全保障、外交、貿易ひいては人種・人権問題等の全てが反映さ

れています。P Vの対中依存が高まっているアメリカでは、中国への過度な依存がアメリカの安全保障の脅威となることを理由に共和党議員が中国からのP V対米輸出を制限すると提案しています。バイデン政権は今後E Vのバッテリー技術を半導体と同様に安全保障問題の一環として位置付けし、海外依存、特に対中依存を減らすべく、アメリカ国内での大量生産を検討しています。

経済競争と安全保障の境界線の曖昧さおよび安全保障自体の定義の曖昧さが米中気候変動協力の不確実性を増大させることになる懸念されています。

### 3-2 米中の気候変動交渉における主要な対立点（私見）

現在、バイデン政権は当面の重要課題であるコロナウィルス対策がワクチン接種率の拡大で奏功しているため、中長期的な内政と外交の最重要課題である気候変動問題に取り組み始めています。「パリ協定」を実行に移すべく、中国との2国間の協議・交渉を開始しています。

これまでの経緯、米中のスタンスを踏まえて、個人的に米中間の主要対立点を以下の通り想定しています。

#### （1）中国の位置付け

「京都議定書」では中国を途上国と位置付けし、削減義務について先進国と途上国が「共通だが差異のある責任」と明文化。WTOと同様にアメリカが国際条約履行時に中国を途上国扱いすることに反対。

#### （2）目標達成のスケジュール

中国が世界最大の炭素排出国としてカーボンニュートラル達成年を米国により10年遅く設定。米国が中国に目標達成の前倒しを要求する可能性。

#### （3）達成状況の検証、罰則適用等

米中にとどまらず、達成状況の検証メカニズム、E Uが強く主張する国境炭素税の導入を含む罰則適用に関する調整が困難。

#### （4）石炭火力発電

中国国内石炭火力のフェードアウト、他国の石炭火力案件への融資と技術移転の規制等に関する合意形成。

中国、米国が地政学的な対立、貿易摩擦等の2国間の問題と切り離して、人類共通の課題解決に向けてカーボンニュートラルに向き合う姿勢が交渉妥結に必要な不可欠であると思います。

（本稿は個人的な知識、情報に基づいて纏められたものであり、筆者が所属する組織・部門の見解、認識を代表するものではありません）

（2021年4月28日・オンライン講演会）

#### 筆者略歴（きよく しょうこう）

北京国際関係学院日本語学科卒業、1995年～：NEDO北京事務所、2002年～：NEDO国際協力センター、2003年～：NEDO北京事務所次長、2009年～：NEDO環境部、国際部、省エネルギー部。

# 日本の対中協力（第1部）

八島継男（会員・顧問）



## 日本の主たる対中協力の概要——政府ベースを中心として

### 1. 日本の対中協力の実現までの経緯

日本の対中協力（政府ベース）の協力は1972年の国交回復から、1978年の日中平和友好条約の締結を経て、1979年の大平正芳首相の訪中を機会に対中円借款の実施に至る間に日中間では様々な動きがあった。この間、中国政府は78年に政策変更つまり、改革開放政策の採用により、外国援助に対し、抵抗感は薄められていたとは言え、当時日中間には特に中国側には日本の援助とりわけ円借款の受け入れには強い慎重論があっ

たと言われた。最終的に日本の円借款の受け入れを決定し、1978年に大来佐武郎外務大臣と黄華外相との間で日中の経済協力協定が署名され、日中の経済協力の開始のための基礎が確立され、1979年の大平首相の訪中によって、日中の初期の具体的円借款対象案件が決定された。

### 2. 日本の対中経済技術協力の原則

大平首相の訪中にあって、次の原則を掲げた。

（1）日中軍事面での協力は行わない。

（2）我が国と他のアジア諸国との関係なく ASEAN 諸国との協力関係を犠牲にしない。

（3）日中関係は排他的なものではなく、他の先進諸国と協調のもとに行う。

もちろんこの大原則のもとにその後の中国の環境の変化等により、他の新しい条件を加えられていった。例えば中国の経済改革の進展によって、近代化の進展に合致するように努めたし、1991年12月第1次中国国別援助研究会（大来佐武郎座長）の報告書は中国政府に提出された。そこで生まれた新たな原則は、①日中友好と世界平和のため、②経済改革と対外開放を支援する、③経済発展に伴う不均衡の是正のため、④人口、国土の広さを考慮する。さらに日本の国内事情と中国のニーズの変化による環境協力に

対するいくつかの協力の強化を強調し、1999年2月の第2次中国国別援助研究会の中国編（渡辺利夫座長）が作成された。この報告書は中国政府に提出されなかったが、本報告書では環境問題を強調する以外中国の発展に合わせて、協力の重点地域を発展した東部、南部沿海地域から内陸の中西部、南西部に移していった。特に環境問題に重点を置いたのは中国国内の地域格差の是正にも役立つものであり、また、日本の利益に資するためでもあった。さらに公衆衛生等直接民生に寄与する分野にも協力した。この頃から、日本の財政問題が対中協力にも影を落として始めた。

2001年外務省は有識者による「21世紀に向けた対中経済協力のあり方に関する懇談会」を持ち、その提言に基づき、技術協力は「対中国経済協力計画を策定し、重点を東部沿海から内陸へ、インフラ整備も東部から西部へ、分野も環境保全、生態建設、貧困撲滅に置くこと」にした。

その後、2005年に行われた日中外相会談において、円借款は2007年をもって、新規案件の採択を最後とするこ

とで合意した。無償資金協力も同時期に事実上終了した。ただ、技術協力は2018年度開始、2022年3月末をもって、全て終了することとなった。しかし、新型コロナウイルス騒ぎで2020年4月以降現在まで協力事業は休業状態である。

### 3. 日中協力の経緯における中断

上述の経緯をたどった日中経済技術協力も全く発展一方ではなく、若干中断に近い状況があった。その最初が1989年にあった天安門事件である。実は筆者は当時JICA大阪国際研修センターの所長をしており、同時に「大来報告書」のワーキンググループの一員であったため、前日から在京していた。事件の翌日の6月5日、第1次中国国別援助研究会の会合が予定されていた。大来座長はじめ多くの委員が一同に集まったが、天安門前の事態に全員啞然とし、誰ひとり発言もなく、2日目であったが事態の実相もわからず、そのうち座長が発言して「しばらく様子を見ましよう、とにかく本日はこれで散会しましよう」ということになった。その後、しばらくこの研究会は休会となった。この年のフランスのパリ郊外のアルシュで実施された7か国首脳会議で中国に対する協力の凍結が確認された。

しかし、次の1990年のヒューストンの7か国首脳会議で海部俊樹首相の主導で凍結が解除された。したがって89年の対中協力額が大きく落ち込んだが、その後はまた順調に伸びていった。しかし、1995年に中国が新疆ウイグル自治区において地下核実験を実施した年にまた若干下がった。1995年以後は借款額はそれほど多くなく、次第に下がっていった。最近では2010年の尖閣諸島近海における中国漁船と日本の巡視船との衝突を契機に日中関係が悪化したときにはすでに対中国協力額は極めて少なくなっていたため影響はそれほどではなかった。

### 4. 日本の対中協力の種類とその特色

日本の対中協力は正式かつ具体的には前述の円借款から始められたが、同じ頃に政府系の技術協力、無償資金協力が順次開始されていった。

本稿では筆者が長く携わった技術協力、無償資金協力から述べる。

#### a. 技術協力の概要

日本の技術協力は基本的に無償であり、その形態は研修員の受け入れ、専門家の派遣、比較的少額の機材供与、

これらを組み合わせたプロジェクト方式技術協力、開発調査（F/S、基本設計等）等である。分野は農・工業、医療、インフラ、環境保護、生態保護等。

#### b. 技術協力の特色

事業は内容的にも年次が下がるに従い、巨大な事業のみでなく単年度で完了するものもあった。これが2000年以降になると明確に下降を示す。日本側の希望もあって、規模も小さく、いくつかは円借款を調査の面などで補完する役割を果たすこともあった。

c. 具体的には研修員の受け入れ（3万6755人）、日本人専門家派遣（9220人）、青年海外協力隊派遣（約800人）、開発調査215件（工場近代化調査を含む）、単独機材供与（これには一般単独機材供与と特別医療機材供与等がある）。また、これらを組み合わせたプロジェクト方式技術協力（125件）がある。1件3年、5年、機材費1千万円以上5億円以下。技術協力事業は2018年に最後の事業が開始され、2022年3月をもって最後とする。その規模は1831億円（1979年～2014年）。

### 5. 無償資金協力

#### a. 無償資金協力の概要

一般に開発途上国に対する協力には有償協力（例えば円借款がこれに属する）と無償協力（技術協力はこれに属する）がある。しかし、ここでいう無償資金協力は資金を先方に供与し、それによって途上国側がハコモノを建設し、機材を購入し、その国の発展に寄与するものである。もちろん無償資金協力と各種の技術協力と結合して、活用することもある。この無償資金協力も2007年に円借款と同じ時期に終了した。その規模1398億円（1979年～2014年）。1件の金額数千万円～100億円以上。

#### b. 無償資金協力の特色

無償資金協力はそれが単独で実施される場合もあるが、機材規模の大きい無償資金協力、または内容が複雑でどうしても技術協力（研修員受け入れあるいは専門家派遣）と組み合わせ、日本の技術を現地カウンターパートに伝授する場合はこうした組み合わせ型が効率的である。しかし、当初は中国側の窓口が無償資金協力は対外経済貿易部であり、技術協力は科学技術委員会

とわかれており、中国側に両機関の調整を任せることは極めて困難であった。当初協力事業に入る前に日本関係機関が調整しておくことが重要である。しかし、この場合、機材の供与あるいはハコモノの供与は余程のことがなければ1年ないし2年で完了する。しかし、技術協力は少なくとも3年ないし5年さらに長くなることもあり得るので、どうしても協力事業の主導権は技術協力を主導する科学技術委員会が持つ。これに対し無償資金協力の窓口、対外経済貿易部は大きな不満を持ち続けた。同部としては無償資金協力が絡む技術協力だけでも対外経済貿易部が窓口になれないかという主張が相当後まで絶えなかった。しかし技術協力で実績を持つ科学技術委員会は頑として部分的にも譲らなかった。結局そうした状態で日本の協力の終結を迎えることとなった。

#### c. 無償資金協力

この代表的な事業は（イ）「日中友好病院」（ロ）「日中青年交流センター」（ハ）「日中友好環境保全センター」。筆者にはそれぞれ感慨がある。何れも1件100億円以上の案件であり、それぞれ当時の日本の総理が関係してお

り、俗に総理事案件といわれている。「日中友好病院」は筆者が定礎式から参加し、とくに竣工式から開院式まで事務所長として、関与した。「日中青年交流センター」については定礎式に参加した。「日中友好環境保全センター」については92年12月の同センター完成前に、開所後、技術協力の本格開始に備えて第1フェーズの専門家として95年8月まで派遣された。この間、工事現場に仮設事務所を開設し、中国側カウンターパートと同じ建物に入り、業務を実施した。しかし、何といても（ロ）の案件は多岐にわたる強い印象を持つ。

## 6. 有償資金協力

### 有償資金協力（円借款）の特色

中国に対する円借款の貸与方式は他の国に対するそれと異なる。日本の対中ODAの原則は先方の要請によること、もちろんこれは日本側がおしつけることはしないということである。これは他の開発途上国と同じである。しかし、当時日本のODAの供与先はすべて、いわゆる資本主義国であって社会主義国は中国が最初であり、その国内事情も不明であっ

たし、実際外国人がどのような生活をしているのかほとんど知られていなかった。こうした中で対中国ODAが開始された。その特色は次の通りである。

#### a. 円借款ラウンド方式

中国は49年の建国時から、3年間の復興時を経て、53年から5年ごとに新たな5か年計画を策定することは周知のところである。

中国としては日本の円借款は貴重な外貨の入手ルートであり、それを5か年計画の重点事業に当てることは当然のことであった。これがラウンド制である。こうして第1次円借款は1979年から、1984年まで実施。このようにして、第2次（84年～89年）、第3次（90年～95年）、第4次（96年～20年）を実施。もちろんこの間単年度の事業もある。2000年以降は単年度案件が中心となり、01年以降は単年度案件のみとなり、内容も上下水道、環境、植林に限られるようになり、02年以降は教育借款のみとなる。

#### b. 条件

基本的には利率0・75～3・5、据え置き期間10年、償還期間30～40年。

#### c. 商品借款

外貨不足の国に対し、外貨を供与し、

それにより外国製品を購入し、国内通貨で販売し、その利益を積み立てる（第1期の宝山製鉄所）。

#### d. 資金還流計画

日本の余剰外貨を利用したもので、円借款で国産品を購入する（輸出基地整備）。

#### e. 対中円借款

基本的に2ステップ・ローンであり、相手の銀行を通じて相手事業に融資する。当然中間機関の役割を果たす銀行は手数料を取る。

#### f. 円借款金額

1979年～2014年。3兆3165億円。

以上がODAによる主たる対中経済技術協力の概略である。その他、民間の投融资事業に対する協力は低利融資および事前調査の試験的事業（開発協力事業）に対する専門家の派遣等で支援する。具体例を挙げれば、例えば、ホップ栽培試験事業地域開発効果等（新疆ウイグル自治区）、醸造用大麦品種開発試験事業（江蘇省・開発協力）。この開発協力事業は国際協力事業団法の中で第3号事業として民間企業を支援するものとして注目された。また、日本の民間のボランティア

アに対する資金援助「草の根技術協力」等がある。

## 7. 案件決定過程と一連の手続き

案件の決定過程は中国政府から前年度の夏までに在中国日本大使館およびJICA北京事務所に案件リストが提出される。しかし、当初は異なった。中国側も日本側も統一した窓口がなく、円借款のみが開始時に日本側は日本大使館およびOECF（海外経済協力基金）、中国側は基本建設委員会に提出すると組織立っていた。しかし、その他には無償資金協力では「日中友好病院」、技術協力では「欧江五峽水力発電用ダム調査」、「日中友好病院」および「日中鉄道協力」がある。ダム調査の方は日本大使館および中国水利部、電力部が協力した。友好病院は当初北京中医大学の幹部が在日華僑の某氏を通じて、兼松江商の先代社長に北京に中医大学付属病院の建設希望が伝えられた。その話が外務省の耳に入り、ちょうど大平首相の訪中計画もあり、病院建設の計画を具体化させ、大平首相訪中時のお土産とした。その証拠に病院の敷地は中医学院の敷地であり、病院建設時から同病院の外事処長は中医学院の黄

院長夫人であったことでも理解できる。また、初代の同病院の院長の辛育齡氏は本院は中医を尊重するが支柱は西洋医学であると宣言し、一貫して、それをつらぬいた。一方、日中鉄道協力では日本側の高木文雄国鉄総裁が非常に熱心であった。

日本外務省もそれを尊重し、80年10月に日本大使館の大鷹弘公使と中国鉄道部外事局の韓力平局長が鉄道協力の覚書に署名した。80年に入り、日中協力の双方の窓口が決定され、もう一歩大きく前進した。

1980年に第1回の日中技術協力のための年次協議が北京で開催され、以降81年を除いて毎年実施された。他方、無償資金協力の協議の開始は数年遅れ、83年に対外経済貿易部が中国側の無償資金協力の窓口となって以降、やはり毎年年次協議が開始されたが、92年までは技術協力の年次協議とは別に実施された。93年以降は技術協力・無償資金協力の年次協議は合同で実施された。95年は中国が核実験を実施して、無償案件が凍結され無償資金協力の年次協議は行われなかった。援助凍結が解除された97年から技術協力、無償資金協力は別に年次協議は実施された。そして98年は効率性を狙って

有償資金協力・無償資金協力・技術協力の合同年次協議が実施された。

## 8. 「窓口」問題

この窓口問題は、1つには中国側、他の1つは日本側窓口である。円借款について、中国側は暫定的に当時の基本建設委員会が窓口であり、日本側は日本大使館が窓口となったが、1、2年後にOECF北京代表が加わった。無償資金協力、技術協力（80年～82年3月のJICA北京事務所の開設まで）は駐中国日本大使館が直接受益機関である「日中友好病院」および衛生部と接触していた。無償資金案件については無償資金協力を含めて、先方政府の衛生部から、先方政府外交部を通じて口上書（外交文書）の形で外務省に提出された。ここで大切なのは先方政府の窓口機関が口上書を発出する権限を持っていることである。中国国家科学技術委員会および対外経済貿易部の主任または部長であり、それは副総理格の國務委員であったため、中国国内の資格問題はクリアした。では日本側は事業の実施段階はJICAまたはOECFが実施するため、これら機関が表に出て活動できた。技術協力は79年時点では日本側、

中国側ともに窓口は未決定であった。無償資金協力について日本側は外務省無償資金協力課が担当し、任国の大使館を通して、先方政府からの申請を受け取る。技術協力は同様に外務省技術協力課へ伝達する。そして関係省庁と協議して採否を決定する。

## 9. 窓口問題の重要性

その窓口機関が一種の身元引受機関ということである。

特に両国政府協議によりJICAの出先機関およびその職員には数々の特恵が与えられている。普通の企業（一般の私企業は工商行政管理局に登録する）とは異なるため特別な窓口が必要である。そこで国家科学技術委員会およびそれを引き継いだ中国科学技術部（実質的にはその一部局である中国科学技術交流センター（日本処）が窓口となるということになる。

他方日本の最大な協力である円借款は当初は窓口が基本建設委員会であったことは既述の通りであるが、その後は対外経済貿易部となり、さらに商務部に移行し、そうしているうちに供与が終了（2007年）以降は返済が主流となり、主

役を金融機関と交替した。無償資金協力は海外経済協力基金から国際協力銀行の公的部分に移管された後、JICAが国際協力機構に変更する過程でその公的部分はJICAの一部として吸収された。

## 10. 日本の協力の効果―1

中国では孫文の中華民国以来の宿願として「南水北調」「三峡ダム建設」「上海浦東開発」が3大悲願であったが、この40年間ですべてを達成し、見事なものだ。これに対し、日本の貢献がほとんどない中で浦東開発に関して筆者が大阪に勤務していた時、奇手を使った活動が当時凍結されていた浦東開発調査の再起動の契機となった。

（1）筆者はこの40年間の中国の発展の大きな要因の1つは交通インフラの拡大と認識しており、それは経済建設の時間を短縮かつ物流・人流を格段に増加させ、発展の原動力となるからである。これには日本のODAとりわけ円借款および技術協力が大きな貢献をしたことは言うまでもない。中でも中国新幹線に電車型（各車両に動力を持たせる）を選択し、欧州の列車型を選択しなかったことは、

当時の日本国鉄と中国鉄道部の長期的な技術交流（30年以上）があったことによることは確かである。何しろ電気、土木を中心とする国鉄の専門家が常時、北京にJICA専門家として駐在し、長安街の鉄道公寓に拠点を置いて、中国鉄道部と交流し、中国の鉄道事情を入手し、日本からの交流団の受け入れ、中国人関係者の訪日の準備等を行っていたのである。こうした交流の中で相互信頼を培ってきたことが大きく作用したことは疑いない。こうしたことから日本式の新幹線技術を中国人関係者が認識したと思われる。08年に北京―天津間に最初の新幹線が走行した。そして現在世界の最新幹線の50%は中国で走っている。もう1つの要因は、90年代の中・後半において、国がそれまでの政府所有の住宅を住民に低価格で払い下げたことだ。それにより多くの国民が持ち家を手に入れた。これ以降多くの中国人は財産欲を獲得し、その頃から人に会えば家のことを話題にするようになった。その後、政府はその資金を元に郊外に立派な住宅を建設し、払い下げを受けた住民にもう少し金を払えば、新築の郊外の広い住宅に住めると誘導し、市中心の旧住宅地を不動産企業に高額で貸与した。旧住民も満足し、政府も豊かになり、

不動産企業はそこに事務所、ホテルを建設し、十分な利益を上げた。

(2) 地域開発：改革開放の初期(78年)、広東省、福建省を中心とした4か所(深圳、珠海、汕頭、厦門)の経済特区が設置され、84年には上海等14都市が「経済技術開発区」に指定された。この開発区は特区と違い、外部との交流が制限された。その後、88年に海南島が省に昇格すると同時に全域が経済特区に指定され、さらに、20年の6月に海南島の一層開放と自由化が進む計画が決定された。第2の香港にする計画のようである。その後、重慶市が四川省から独立し、北京市、上海市、天津市に続く、4番目の直轄市になり、その前後にさきに述べた14都市の開発区の設置と併せて東部地区から、さらに西部の内陸開発が促進されることとなった。

(3) 東部沿海地区、長江流域、例えば、長江デルタ、珠江デルタ閩南トライアングル、山東半島、遼東半島、河北省、広西チワン族自治区等、沿海のみでなく、開発は内陸にも向かった。しかし、その間89年の天安門事件により開放政策は一時的頓挫したが、92年の1月～2月にかけて、

鄧小平の南巡講話を契機に、開放政策が復活し、開発区が拡大した。その他技術開発区は各地で拡大したが、その中で目立つのは唐山の曹妃甸開発区、天津滨海新区(94年3月)等が挙げられる。

(4) 各地の再開発と同時に新区の建設は大都市のみでなく県城所在地までに及び、こうした中で新都市が生まれ、人々の生活水準が大きく向上した。この間にも汶川大地震、甘肅省舟曲県(2000年の土石流)をはじめ毎年のように起こる自然災害に対処するため、地震被害都市の再建および移転、水害に対しては主流河川にダムを建設し、淡水資源の確保および治水に力を注ぎ入れた。

国際河川にダムを建設することは大きな問題を起こす可能性があり、メコン川では2011年に中国のパトロール船が同河川において襲撃され、中国人乗組員が10名近く殺害された事件があり、その後同河川の管理は中国側主導で行われている。また、メコン川の水源は瀾滄江であり、そこに現在11か所のダムが建設されているといわれる。その他、ミャンマーのサルウィン川の水源は怒江、その上流の近辺にエーヤワディル川(イラワジ川)の源流があり、また、現在緊張関係にある中国・インド間においてもインドの北部の重要工業ベルト地域を横断するインダス川やガンジス川の重要河川の水源はチベット高原およびヒマラヤ山系に源流があり、とりわけグラマドプラ川はチベット高原最大河川、雅魯藏布江(その水量は長江に匹敵するという)と言われる。したがって東南アジアおよび南アジア諸国は中国と友好関係を保つことが非常に重要なのである。

## 11. 日本の協力の効果―2

この40年間の日本の協力は中国の発展にどのような効果をもたらしたか既述のように一口では表現できないほどであろう。

中国には建国初期の53年から5年毎に経済5か年計画を策定し、その中に最も重要な事業を国家級重点事業として区分けし、それらの事業に優先的に物資等を供給する。したがって日本の協力事業が毎年この国家級重点事業にどれだけ採用されているかに中国側が当該事業をどれだけ重視しているかが判る。これが事業の評価の1つの基準となる。こうした視点で見えてみる。

円借款事業は中国が将来償還する義務を負うのであるから、多くが重点事業に

組み込まれている。しかし、超大型事業、例えば三峡ダム建設には参加していない。これは同ダムの建設には国内外から、疑問が呈された経緯があったためで、日本は参加をためらったようである。上海浦東開発についてそのF/Sには既述の通り、筆者の妙手によって、機会を失することなく浦東開発区内の飛行場と港湾には調査、事業化に際し、円借款が供与された。南水北調には日本は参加していないが、外国の参加はなかったと思う。ただ河南省で黄河の川底にトンネルを掘削する際の掘削機にはドイツ製が使われたことはたまたまテレビで放映された画面で知った。地域開発において各地の新区建設では海外の参加はなかったと思う。ただ、河南省鄭州市の新区建設には黒川紀章設計事務所が国際入札の結果、設計会社として採択された。しかし、ここで当時河南省書記であった李克強（現総理）との人間関係が見落とせない。84年北京の日中青年交流センターの建設に当たり設計を担当したのが黒川紀章設計事務所であり、この時点で両氏は関係を持ったのである。その意味では無償資金協力事業（日中青年交流センター）が鄭州市の新区建設に間接的に参加したといえよう。

## 12. 今後のフォローについて

- (1) 3兆5千億円以上の協力額に見合う効果を検証すること。
- (2) 9千人以上の日本人が訪中し、中国関係者と交流した結果を如何に継承するか？
- (3) 今後の持続的交流の方向
- (4) 日中友好大学の設置は何故できなかったか？

## 13. 結論に変えて

筆者の40年間の経験のまとめとして次の3点を指摘したい。

- (1) ある中国人から次の言葉を教えられた。「贈り物を贈るときは贈る物も大事であるがそれに劣らず贈る仕方が重要である」。贈る贈り方、すなわち「相手を尊重し、相手の欲する物を贈ることである」。この言葉を教えてくれたのは誰であろう。中国側の無償資金協力の受け入れ窓口である対外経済貿易部の幹部である。絶えず日本側と折衝する中で得られた教訓であろうと思うとき、我々の言葉振る舞いの中にもそうした態度や言い回しがあったということであろうと深く反省するところがある。

(2) 援助または協力事業にとって大切なのは協力の「時」すなわち相手が欲するときあるいは協力事業を必要とされるときに贈るとか協力することである。特に近年の中国のように変化、発展の速い対象に対してはそうである。それは事業の大小、金額の多寡よりも重要である。時期を失した協力はむしろ相手に迷惑となる。特にそれは協力事業の場合は受益者もそれ相当の投資をし、労力を払うからである。何れにせよこれらのためには不断の交流と相互理解を深化させることが不可欠であろう。

(3) 協力事業においても不断なる改善と進化に努め、変化する内外環境に適応していくことが重要である。

## 筆者受賞歴（やしま つぐお）

### 〈中国〉

1992年6月 中華人民共和国国家科学技术委員会「国際科学技術合作賞」  
1994年9月 中華人民共和国國務院外国人専門家局「友誼賞」  
2001年11月 北京市人民政府

### 「長城友誼賞」

### 〈日本〉

2019年7月 令和元年度日本国外務大臣表彰

2019年10月27日～11月3日

# 中国吉林省

## ——長春・公主嶺・四平を訪ねて

村田嘉明（会員・国際交流委員）

10月27日（日）

中国東北地方の旅は、1年振り（2018年6月以来）である。

13時25分、成田発CZ中国南方航空で15時30分定刻に長春龍嘉国際空港に着き、空港国際線ターミナルで友人の長春人、王さんと1年振りの再会、空港駐車場に移動し、王さんの自家用車で市内の宿泊先ホテルに向かう。天気は快晴で途中、助手席の車窓から中国東北部の日没の「夕陽」を撮った。また、石炭火力発電所の「煙突」も撮影できた。これから中国東北部の冬は石炭火力による地域暖房システムが稼働する熱源が石炭火力発電所である。今回の旅行期間中、天候は晴れの日が続き、市内でマスクをした市民は、ほとんど見かけなかった。

空港から約1時間で緑園区内の錦江之星・一汽廠区賓城酒店636号室にチェックインする。荷物を開け、すぐ、カウンタートパートの王さんの自宅（朝陽区内）から王さんのクルマで市内中心部（朝陽区開運街）に移動。奥さんと8歳の突銘ちゃんと1年振りに再会。マンションは7階建の3階、エレベータはなし、間取りは146㎡と広い。テレビはシャープ製、洗濯機は松下（パナソニック）のドラム式、タイガー製の高級炊飯器など家電製品は日本製が多い。日本から持参した薬、日用品などの土産を渡す。夕食は夫人手作りの東北料理と青島ビールをご馳走になった。その後、王さん運転のクルマでホテルに戻り、就寝する。旅の疲れで熟睡する。明日は市内中心部「西安大路」「重慶路」行き。

10月28日（月） 長春市内

訪中2日目の朝、5時に起床しホテル2階の餐厅でトースト、コーヒー、暖かい牛乳で朝食。昨晩は旅の疲れで熟睡した。天候も晴れ、爽快な朝。9時過ぎにホテルを出発し、徒歩10分足らずで路面電車54路（旧満州国時代からの路線）創業大街から終点駅の工農大路で下車し、路線バス62番の西安大路で降り、長春市の中心部、重慶路と隣接し、ブランドショップも集中する繁華街へ。五星の香格里拉大酒店から徒歩10分で人民広場（旧大同広場）に移動し、中国人民銀行（旧満州中銀）前の地鉄1号線の人民広場から隣駅の解放大路で下車し、漢方薬局「北京同仁堂」見学。その後、地鉄で人民広場に降り正午、日本人の友人（長春在住25年）とホテルのロビーで再会する。長春市外事弁公室・欧主任と1年振りの再会、香格里拉大酒店1階のレストランでバイキングランチ。翌日10月29日から長春市とドイツとの交流イベントが香格里拉大酒店で開催のため外事弁公室は準備で市役所から職員が来ていた。欧さんはランチを途中で退席し、長春龍嘉国際空港にドイツの訪中団を迎えるため向かった。

香格里拉大酒店のランチ招待は欧さん

によるもので、中国料理、フランス料理、日本料理など、さらにケーキなどデザートも堪能した。ホテル前路線バス62番に乗り、生まれ故郷の旧居跡へ移動。上海路で降りたが夕立のため、便利店（コンビニ）で傘を買い、路線バス62番で工農大路に行き、路面電車54路で創業大街駅へ移動、ホテルに帰った。長春中心部「人民広場」を歩いて気づいたが、道路両側に赤い「五星紅旗」が整然と並んで吊るしてあったのは「国慶節」の延長か？

### 10月29日（火）長春西から瀋陽南へ

早朝、ホテルロビーで友人の王さんに会い、クルマで高鉄長春西駅へ向かう。西駅から高鉄G8004、7時4分発に乗り、瀋陽南駅に8時40分着。瀋陽南駅改札口A2出口で瀋陽青年旅行社の李さんと初めて会い、タクシーで目的地「瀋陽鐵路陳列館」に向かう。蘇家屯駅前に近い場所に本年7月リニューアル再オープン（2009年6月開館）した巨大なSL展示館である。満鉄時代の高速鉄道亜細亜線を初め、豪華な陳列に圧倒される。鉄道ファンでなくても見応え充分な価値ありの施設。私は鉄道マニアでないが10年以上昔、引揚者交流団体（3年前解散）の席で、南満州鉄道株式会社（満

鉄）のOB社員（1946年末までに本土に引揚、旧日本国有鉄道などに転籍した社員。現在は鬼籍の人である）から往年の高速列車亜細亜線の写真などを譲ってもらった。

入場料金は80元、私は65歳以上の高齢者で「無料」、中国は老人を優遇する国。2009年オープン時はSL車両の展示のみだったが、陳列した車両横に「中文の解説パネル」があり、SLファンにとってありがたい。旧満州国時代から中華人民共和国建国後、中国高鉄（和諧号）が広大な中国国土に果たした意義は大きい。ちなみに、陳列館入場者は研修目的の吉林省延辺鉄路局の男性1人だけだった。約1時間半の見学後、通訳ガイドの李さんとタクシーで瀋陽北駅（瀋陽市の中心地：高鉄の基幹駅）へ移動し、市府大路の「膳之坊老菜館」で昼食。レストランは瀋陽の中心地「北三経街」は瀋陽迎賓館（元奉天日本総領事館）に近い。地鉄2号線の市府広場駅から瀋陽北駅で乗り換え、瀋陽北駅発のG3801で長春西駅に約1時間半で戻った。

### 10月30日（水）長春西から四平東へ

本日は遼寧省境の四平行きのためホテルの朝食抜きで早朝7時前にホテルを出

て路面電車55路で高鉄の長春西駅へ移動する。路面電車55路（最近新規路線）と高鉄長春西駅が接続しているため、大変便利。

中国の高鉄の乗車方法は鉄道駅改札口でパスポートと乗車券を駅員に見せ、持参の荷物（リュックサックなど）をベルトコンベアに乗せ、身体検査、荷物検査後、待合室に移動し待合室電光板の列車番号と入場改札ゲートを確認し、発車15分前まで待合室で待機する。列車発車時刻の15分前に「緑色」の入場検札の電光版を確認し、入場改札ゲートに並ぶ。

改札が始まり（自動改札）乗車券を改札機に挿入し乗車券を取り出し、ホームに移動し列車に乗り込む。高鉄G400は定刻8時48分に長春西駅を出発し、定刻の9時15分に目的地の高鉄四平東駅に着く。乗車時間わずか25分だが、乗客と交流する。四平は吉林省の最南部の遼寧省境である。

先の大戦で私は両親と1945年8月終戦後、遼寧省葫蘆島から本土、博多港に引揚げた。その後、1946年、1948年に、国共内戦中の国民党と共産党が吉林省四平街で激戦を展開し、共産党軍が勝利した。今回、市内の「四平戦役記念館」に入場し「四平戦」の激しさを

痛感した。当時の共產主義戦士の国民的英雄「雷鋒」の伝記本を購入した。公園内に記念館があり「四平戦烈士記念塔」もあった。高鉄の四平東駅下車後、路線バス101番に乗り、隣席の女子学生（長春理工大学四平分校）に四平市内の場所を確認することができた。とても親切な会計学専攻の学生。帰路は四平駅前のレストランで昼食後、路線バス101番で四平東駅に移動する。

13時に高鉄の四平東駅の改札が始まり、四平東駅発G8009に乗り13時45分長春西駅に着く。路面電車55路で終点の工農大路で下車する。紅旗街、建設街と約20分歩き、地鉄2号線の文化広場駅（付近には偽満州国時代の国務院、地質宮、吉林大学がある長春の中心地）から地鉄2号線の解放大路駅で1号線に乗り換え、勝利公園駅（旧・児玉公園）で下車し北京大街をとおる、私の出生場所である上海路（広州路）の旧居跡を再訪する。

旧居は15年くらい前に取り壊され、グリーンベルト帯（緑地帯）になっている。上海路と広州路に挟まれた場所であり、路線バスの

停留所（吉林省省政治協商会議ビル前）がある。広州路の反対側は地上3mの高さの塀が立つビル・マンション建設予定現場だが、4年以上放置された巨大な空き地。昨年6月の訪中時と同じ状態。上海路から路線バスに乗り、緑園区・皓月大路のレストランで夕食（餃子と青島ビール）。路線バス245番に乗り創業大街駅で下車、ホテルに戻った。



長春駅舎：2019.10.31撮影。このビル手前が駅前ロータリー、路線バスターミナル。ビル西側に輕軌（チングイ）1号線と3号線の駅がある。

## 10月31日（木）長春駅から公主嶺へ

本日も天気は快晴。ホテルを9時半に出発し、路面電車54路で創業大街駅を出発。寛平大橋駅で輕軌3号線（4輛編成の電車）に乗り換え長春駅へ。10時半に長春駅に着き、荷物検査、パスポート提示、乗車券チェックを受け、列車待合室に移動する。

11時35分ごろ改札が始まり、普通列車K2388の14号車に乗り込む。座席は硬座だが青いシートで柔らかな座席、長春人の家族連れと交流した。

12時24分定刻に目的地、公主嶺駅に着く。駅前は道路整備されているが、駅の前は道路工事で掘り返しの穴が多く、歩行に注意。公主嶺は満州国建国前から満鉄の農事試験場や公主嶺農学校があった農業県。駅前を進み、「新華書店」で公主嶺市のMAPを購入する。途中、中国銀行公主嶺支店で市政府の場所を尋ねる。4、5人の行員が熱心に説明してくれる（来店客が少ないため）。昼食を大型超市近くの包子店（中華饅頭）で包子2個、4元を支払う。味は良い。老板（店主・40歳くらい）と持参のタブレットで日本の風景写真を見せ交流した。約1時間、包子店で休憩し、帰路の列車の出発時間



中華人民共和国建国70周年記念マーク

調整をする。地方都市の公主嶺は四平市の管轄に入っており、農業・畜産業の農業県で大学、工場はない。しかし駅周辺の店舗は建材屋が多く、中国の地方都市も建築ブームか。包子店を出て、市政府や公主嶺科学技术部・公主嶺老科学者工作協会の建物を確認する。中国では北京中央政府科技部から地方都市の組織まで「科技組織」があることに感心した。この市の特徴は病院、農業関係の銀行が多いこと。メイン道路の両側に赤い「五星紅旗」が整然と並べてある異様な光景で

ある。共産党の地方組織まで赤い「五星紅旗」が浸透している情景だ。その後、公主嶺駅前の餃子店で蒸餃子と地ビール（四平産）で夕食。

午後4時を過ぎたため駅前の餃子店を出て公主嶺駅に向かう。公主嶺駅16時46分発2623普通列車で長春駅に帰る。公主嶺駅前は建材業者などの出張客が利用するのか、地方からの出張客用のホテル、旅舎が多かった。

### 11月1日（金）自由行動日

ホテルを9時半に出て54路で創業大街駅から工農大路駅で降り、路面電車の停車場から紅旗街にカメラを向けたがシャッターが下りない。故障である。

長春の友人の情報（中国版SNS微信）で地铁の工農大路駅から建設広場駅への順路をSNS微信で送ってもらった。そのMAPを参考に、建設広場駅から解放大路駅で乗り換え1号線人民広場駅で降り、徒歩で西安大路交差点香格里拉大酒店近くの国際大厦B座14階の山崎外国語培训学校を再訪問する。山崎女史と沙理事長（夫）に面会し、故障のカメラをもらい単3電池4個を交換してもらったが故障は直らなかった。当日、外国語培训学校に研修で来ていた張紫薇さん（光華

学院大学4年生）と近くの超市に行き買い物サポートをお願いし、買い物後、国際大厦B座近くのレストランに案内してもらい美味しい中国料理を食べ、満足した。

その後、路線バスと路面電車54路でホテルに帰る。ホテル客室で休憩と仮眠後、友人の王さんが午後6時ごろ、来訪。タクシーで移動し、西安大路交差点で降り、香格里拉大酒店近くの董魯烤焼鴨店で山崎女史夫妻と招待者の孫さんと5人で夕食会となった。孫さんは長春人で現在、息子さんが日本（京都）の大学に留学中で日本最員の中国人。長春市の役人で長春市都市環境局副局長の要職にあり常に長春市の環境、危機問題に注力している。

北京ダックなどの料理を食べながら「乾杯」を重ね、午後8時半を過ぎ、お開きになった。再会を約束し、董魯烤焼鴨店を後にし、王さんとタクシーで緑園区のホテルに帰った。明日は帰国前日で西安大路の長春市山崎外国語培训学校で日語角（日語コーナー）に参加し、長春市民と留学生（神戸市外国語大学、愛知学院大学）と日中交流会の予定。日本に5年〜15年くらい長期滞在し、日本の地方都市の工場ラインなどで働いた者が多い。日本語会話はできるが「日本語会話」を



左：左から王さん、山崎女史、村田、孫さん（長春市都市環境局副局長）、沙理事長  
右：長春市山崎外語陪訓学校の日語授業科目一覧

| 2019年(令和元年) 11月4日 月曜日 今日 |                         |            |                      |                   |
|--------------------------|-------------------------|------------|----------------------|-------------------|
| 第一教室                     | 第二教室                    | 第三教室       | 第四教室                 |                   |
| 10:00~12:00<br>初級全日制(12) | 12:00~12:40<br>初級全日制(初) | 11月1日 新中級  | 10:00~12:00<br>初級全日制 | 9:00~10:00<br>一対一 |
| 15:00~15:40<br>初級全日制(1)  | 13:00~15:00<br>初級全日制(初) | 11月11日 新中級 | 10:00~12:00<br>初級全日制 |                   |
| 16:00~17:30<br>中級上(14)   | 10月29日 新中級              | 11月18日 新中級 | 10:00~12:00<br>初級全日制 |                   |
| 17:30~18:30<br>基礎日語I(2)  | 10月29日 新中級              | 11月18日 新中級 | 10:00~12:00<br>初級全日制 |                   |
| 2019年(令和元年) 11月2日 土曜日 今日 |                         |            |                      |                   |
| 9:00~12:00<br>初級全日制(12)  | 12:00~12:40<br>初級全日制(初) | 11月1日 新中級  | 10:00~12:00<br>初級全日制 | 9:00~10:00<br>一対一 |
| 15:00~15:40<br>初級全日制(1)  | 13:00~15:00<br>初級全日制(初) | 11月11日 新中級 | 10:00~12:00<br>初級全日制 |                   |
| 16:00~17:30<br>中級上(14)   | 10月29日 新中級              | 11月18日 新中級 | 10:00~12:00<br>初級全日制 |                   |
| 17:30~18:30<br>基礎日語I(2)  | 10月29日 新中級              | 11月18日 新中級 | 10:00~12:00<br>初級全日制 |                   |

忘れないよう日語角に参加している。年  
代的には50歳台、60歳台が多い。山崎校  
長がボランティアで教室解放。

## 11月2日(土)

ホテル餐厅で朝食後9時過ぎ、路面電  
車54路で終点の西安大路で降り、徒歩2  
分で春城大街で路線バス364番に乗り、  
10時過ぎ、市内中心部の西安大路(重慶  
路)でバスを降り、バス停前の国際大  
厦14階、山崎外語陪訓学校に着く。すでに  
「日語角」参加者は着席しており、私を  
待っていた。時間は10時、12時で前半1  
時間は私の「報告」、後半1時間を長春  
市民、留学生との交流時間。テーマは  
「中国東北部からの引揚者私の中国との  
国際交流」であった。日本人5人、中国  
人7人(内男性6人、女性1人)。

同校、山崎女史から報告依頼があり、  
何の準備、資料配布もなく、私の中国東  
北部・長春との交流を報告した。私の記  
憶により長春中心部(現在の上海路)で  
生まれてから約2年間、遼寧省葫蘆島か  
ら本土(博多港)引揚までの経緯を説明  
した。中国東北部からの引揚者105万  
人の「1人」が私で残留孤児にならず、  
両親と3人で引揚、時代が推移し定年退  
職後、第二の故郷「長春」をこの20年前

から団体旅行(引揚者団体：日本長春会  
や個人旅行で訪問し、上海路の旧居跡地  
を訪問して、個人的に親しい長春人、長  
春市外事弁公室と交流していることを説  
明した。参加者の中国人7名は日本に仕  
事で長期間滞在したことがある。日本語  
会話はできるが日本語を「忘れない」よ  
うにするため、毎週「日語角」に参加し  
ている。

日本人の留学生は短期留学生で人民大  
学の東北師範大学に留学中。私と同年代  
の小島さんは現役時代、中国各地に「出  
張」経験者で中国語を学習中、日本にい  
た留学生(調布市・電気通信大学修士生)  
から中国語教師と親密な交流があり、長  
春市内の老師の自宅に7泊し翌日11月3  
日中国南方航空CZ便で帰国した。CZ  
便の座席は偶然隣席だった。

## 11月3日(日) 帰国便の荷物トラブル

早朝、チェックアウトし、王さんの車  
で一路市内「南関」(一通河近く)のリ  
ムジンバスターミナルに移動。午前5時  
15分にターミナルに着き、王さんと別れ、  
6時10分リムジンバスで「長春龍嘉国際  
空港」に到着する。8時10分発中国南方  
航空CZ便で帰国する。



前列左から神戸市外国語大学生、愛知学院大学生（東北師範大留学生）、村田、小島さん、山崎校長  
後列は中国人（長春人）で長期・就労ビザで日本国内各地、働いている人たち。

往路は成田空港で荷物検査は順調にパスしたが、復路は長春龍嘉国際空港発CZ便搭乗の際、空港CZチェックイン時に「警報」が鳴り、トランクを開封させられリチウム・イオン電池をトランクから取り出し、リュックサックに移し換えた。また、成田空港の最後の関門、税関でトランクキャスターを引き税関に行く途中、茶色の小型の検閲探知犬に接近され、係官に誘導されトランクを開封した。中身は中国の青島啤酒と使用済下着のため問題なく、税関通過、入国できた。検閲探知犬の鋭い「嗅覚」でトランク底に浸みついた缶啤酒（ビール）の「液体の匂い」を嗅ぎつけられた。帰国日の2日前にホテル近くの超市（大潤発）で青島啤酒、哈爾濱啤酒を買ったが、トランクに入れた1本が缶底から「液漏れ」していた。トランク内部を「乾燥」させたが、匂いが残り、犬の嗅覚に反応したものの、犬は麻薬捜査専門の犬と動植物食品「移入」防止の検閲探知犬がいる。成田や羽田の国際線「入国」税関検査場の近くでは「検閲探知小型犬」に注意。

## 終わりに

訪中時期が10月の国慶節および中華人民共和国「建国70周年」と重なり、瀋陽、長春など大都市以外の地方都市（四平市、公主嶺市）でも鉄道駅内、メイン道路、大衆レストランなどに①五星紅旗、②建国70周年記念広告（前掲写真参照）が多くあり、中国東北部でも全国的に建国70周年のスローガンが展開されていた。

今回の旅行で長年の友人や、新しく知り会った長春市民、庶民と国際交流できたことが収穫だった。11月3日に帰国したが滞在中はすべて「快晴」に恵まれ幸運だった。しかし帰国の2週間後には降雪があり中国東北部は「冬」に移行していった。

中国東北部は日本語を学んでいる若者が多数いることを知り、日中友好の絆を深めたい。

この訪中記は、新型コロナウイルス感染症パンデミック以前の2019年11月現在の情報です。

中国ファンの私としては早く「新型コロナウイルス」が収束し、再訪中の機会を希望しています。



編・訳 上松玲子

## 2021年3月7日記

### 南北の差をどう見る

先日来各地の昨年第3四半期の経済レポートが続々出ている。データによれば総体的経済力上位10の都市は上海、北京、深圳、重慶、広州、蘇州、成都、杭州、南京、武漢で、天津は11位と初めてランク外となり、上位10位に入った北方の都市は北京のみになった。

このランキングは南北の差に関する論議を巻き起こし、これ

からは南の時代だという声が大きい。上海交通大学安泰経済管理学院の陸銘特任教授は、総体的経済力だけの比較は適切ではないとし、1人当たりの指標や生活の質、公共サービスの充実度も見るべきだと主張する。

いわゆる南北の差というのは長江周辺の水運力によるもので、10都市から長江と珠江沿岸都市、および上海に近い杭州を除けば、差が大きいとは言えない。

現在の差を体制や文化と軽しく結びつけるべきではなく、大国の経済発展過程では地理的な条件差から必然的に役割分担されているが、やがて平均化へ向かうと陸銘氏は述べている。  
〔望東方週刊〕2021年第1号1月14日

### 故郷を離れた高齢者に関心を

朝6時に起きて朝食の支度をする。朝食後夫は息子の長男を学校に、私は次男を幼稚園に送っていき、帰りに野菜を買ってくる。午前中は部屋を掃除し、昼食の洗い物や夕飯の食材を準

備したら、3時には夫が長男を迎えに出かける。息子や嫁は帰宅が遅いから放課後の習い事にも連れていく。感染症対策で登校できなかった期間は毎日長男のオンライン授業や課題の提出を見守った。これら多くの雑務が山西省から北京にやってきた楊春玲さんとご主人の日課だ。大都市に移住した高齢者の多くが楊さん夫妻と同様だ。家族にとって何がよいかを出発点に考え、半ば自主的に、半ば仕方なく移住を決めたのだが、問題は彼ら自身の求めるものに対して社会や家庭が無関心なことだ。

中国の属地管理と戸籍制度による制約、さらに親族の強大な結束力によって、彼ら「老漂族」の根は依然故郷にあり、社会的身分も故郷にある。多くが小都市や県城、郷鎮など住民の皆が顔見知りのような社会から都市に来て、家族との団らんはあるものの、社会とのつながりは突如として断たれてしまった。都市の商品住宅であるマンション

の人間関係の中では孤独を感じがちになる。さらに、「老漂族」たちは日常ほとんどの時間を孫や子どもたちの世話に追われて過ごし、徐々に社会の隅で誰にも知られない存在になっていく。社会保障制度を整備し、福利の対象を広くし、若い世代とともに都市に移住した高齢者を制度上正式に支援するとともに、子育て支援にも力を入れるべきではないか。2人目の子どもは全面的解禁という政策が実施されてから、そうした老人たちの負担も倍増している。第14次5か年計画で提言されている子育てコストの軽減と子育てサービスの充実が移住高齢者の負担軽減にもつながろう。

また、放送通信技術の発展は時空の境界を越えた帰属意識を可能にするだろう。若い世代の手助けの下、多数の移住高齢者がSNSを使ったチャットやご祝儀のやりとりを覚えれば、彼らの生活が豊かになるだけでなく、若い世代とつながる新しい経路となるだろう。家族の支援

は新しい技術だけでなく心のつながりもたらず。インターネットを用いた年代や社会グループを越えた反哺の孝こそ移住高齢者に対する社会の支援を一步進める重要な方向になるだろう。

〔光明日報〕2021年1月14日

## 民宿にも注意が必要

2020年末に出たAirbnb（空き部屋のオーナーと宿泊者を結ぶインターネットサービス会社：訳者注）のレポート、『2021年中国旅行動向』の中で、1000人の国内旅行者の66%が今年の旧正月の休暇には民宿や短期賃貸、民泊を利用しようという意向だという調査結果が出ている。

民宿が選ばれる理由はその気取らなさ、住民の個性そのままの内装、自宅のような風景、人情味のあるサービスなどで、滞在中現地のリアルな暮らしを味わい、その地域の一部になれる感覚を得られることである。

しかし、違法行為も次々と明らかになっている。繁忙期には

価格が吊り上がり、高級ホテル並みであったり、行ってみたら広告写真とは全く違っていたり、基本的なサービスさえないなどである。さらに深刻なのは安全性の問題だ。青島の民宿では隠しカメラが見つかり、関係者が拘留された。また、キッチンを備えた民宿では電気、ガスの安全性に加え、食品の安全性も懸念されている。

民宿の経営も知識が必要で、消防や公安関係の煩雑な手続きもあり、座っていれば稼げるという甘いものではないと『民宿は儲かるというのは詐欺だ』という動画で指摘する人もいる。

それでも民宿の魅力は旅行者を捉えて放さない。人と人の心の交流は標準化されたホテルでは得られない。そこで旅行者は自分で学ぶ道を選ぶ。インターネットには失敗しない民宿選びのための情報が多く共有されている。ブラックリストもあり、ある程度世論の監督効果が得られている。だが、やはり各地方政府による管理が求められる。

〔瞭望東方週刊〕2021年第2号1月28日

## 2億労働者の日常に潜む危険

フードデリバリーサービスの配達員、個人商店の店主、内装業者、清掃員、インターネット配車サービスの運転手など、都会で様々な辛酸をなめる労働者たち、彼らをくくる1つのことばが、「フレキシブル就業者」だ。統計では、全国2億人のフレキシブル就業者の大半が労災保険に未加入という。毎日忙しく働いて一見安定した生活を送っているようで、実は背後に深い谷があり、一旦何かあれば本人も家族も落ちて行くしかない。

新しい業態が就業の定義を変えている。労働関係がフレキシブルになっていることが鮮明で、これは現在の労災保険制度に対する大きな挑戦である。デリバリーの配達員が登録する「蜂鳥衆包」アプリには、登録時に3つの覚書や承諾書がある。中でも「ユーザー協議」には蜂鳥衆包は情報の仲介サービスを提供するだけで、労働雇用関係は存

在しないと明記されている。

労災保険にかわるものとして、傷害保険の加入を提示する業者もあるが、多くの配達員が傷害保険にも入っていない。システムの登録拠点が変わるたびに加入しなおしになるからだ。

現在、彼らが業務中に負ったケガを巡って紛争が絶えない。紛争の主な争点は2つある。1つは雇用関係の有無、もう1つはケガをした場所や時間が労働時間、場所の範囲なのかということだ。いつ働くか、どの仕事を受けるかは本人の自主性によるところが大きく、これが問題を複雑にしている。

フレキシブル就業者とりわけ新しい業態の就業者の労災保険問題には主管部門も注目しており、一部の地方では様々な方法で解決が試みられている。1つの考え方は労災保険の対象にフレキシブル就業者を入れることで、山東省濰坊で実施されている。江蘇省の南通や呉江、太倉などで試みられているのは政府主導で新しい商業保険として職

業傷害保障を確立する方法だ。

いずれも有益な試みであるが、壁もある。対象者の線引きと保険料率の問題、さらには労災認定や支払い審査の問題である。

『新華毎日電訊』2021年1月30日

## 2021年4月1日記

### 飲酒前の免責状に効力なし

SNSにアップされた「宴会声明」の画像。「宴席参加各位が飲酒後もしもの事態となっても、友人、関係者には何の関係もなく、全て本人自身の責任です。飲酒により負傷、死亡しても同席の方々には何の落ち度もありません。もしもの場合に親族とトラブルにならないよう、この声明を用意しました。各自署名をもって発効します」とあり、その下にはいくつもの拇印がある。まるで命懸けの血判状だ。

この数年、飲酒による事故が多発している。過度の飲酒で死亡した場合同伴した者が賠償責

任を求められるケースも頻発している。そこでこのような免責声明文や宴会声明文が「発明」されたようだ。

だが、法律家によればこのようなものは法律的な効力がないそうだ。いくら本人が良いといっても、人身に損害が及ぶ場合、故意や重大な過失による財産の損失には適用できないからだ。

法律がこのように規定しているのは「家長主義」の原則をとっているからだ。つまり家長のうちに、あなたの利益を守るために、時にはあなたの自由を制限し、あなたに自分の大切な権利を放棄させない立場をとる。従って飲酒による損害の責任を自分で負うというのも法律の前では無効である。何よりすべてをこのような血判状で解決していたら、法律で弱者の保護を語りようがないではないか。

『北京青年報』2021年2月23日

### 離婚の専業主婦に家事補償

先日北京市房山区人民法院で離婚裁判の判決内容が論議を呼

んでいる。新民法下初めて出された婚姻中の家事に対する補償を命じる判決だったからだ。

王さんは2015年に結婚、2018年に子どもを連れて家を出て以後、夫から何度も離婚訴訟を起こされている。王さんは結婚以来、育児、炊事など家事全般を担い、一方夫は会社に出勤する以外家事は何もせず、母親名義の家を改装して第三者と同居していたということ、王さんは共同財産の分割と16万円の慰謝料を求めたのだが、判決では離婚を認めた上で、子どもは王さんと暮らし、夫側に毎月20000円の養育費支払い義務と面談権、共同財産の分割、そして婚姻中の家事の補償として王さんに5万円を支払うことを命じるものだった。

世論の反応はこの、家事補償の5万円について5年分では少なすぎるという反応だ。北京では5万円じゃ家政婦を1年も雇えないではないかというのだ。

今年1月1日に施行された新民法では婚姻期間に家事、育児

介護、一方の仕事の支援など一方の負担が多かった場合それを補償するべきと規定しているが、具体的な補償方法は双方で協議するとしている。

弁護士の高雨佳氏は、民法上で家事労働に対する補償を規定したことは家事労働の価値を認めたことになる、とした上で、夫婦の役割分担事情は家庭によって異なる上、育児は父母の義務であり、家政婦とは比較できないと述べている。

むしろ、このような反応が起る背景について着目すべきだ。日常生活の中で専業主婦（原文「全职太太」）の家庭に対する貢献度が認められていない現実や、女性が結婚後に利益や権利が十分に保障されていない現実が浮き彫りになった。お互いへの思いやりと役割の尊重が重要だと鮮氏は指摘する。

『中国新聞網』2021年2月24日

### 15日退院ルールに潜む問題

多くの病院が内部規定で医療保険加入者を15日で退院させて

いるという市民の声に全国人民代表大会代表の林勇氏は注目している。同氏によれば国にも、省市にも係る規定は存在しないという。

医療保険の限度額と、病床回転率の審査基準が暗黙のルールの大きき理由のようだ。病院を老人ホームにしないためだ。

医療が氾濫する現在、1つの病気の医療費を抑制することは確かに必要だ。大病院の病床はひっ迫しており、回転率を上げ、より多くの患者の利益を図ることも必要である。しかし問題は政策の制定から執行の過程を審査するにあたり、過度に機械的、画一的であるために、各段階で圧力が生じ、最終的には医師たちの手足を縛り、患者を犠牲にしているということだ。

現在の審査システムは改革が必要だ。患者の状況は複雑で治療に要する時間や費用は人によって異なるため、一律に標準を定めることはできない。医師にもっと権限を与えるべきであり、治療には責任を持ってもらうが、

医療に関係のない義務は押し付けるべきではない。

また、時間を要するリハビリについては病床のひっ迫した「三甲医院」（設備の整った大病院）を退院後、一般の病院で継続して行うなど、診療内容の役割分担も必要になるだろう。

【澎湃新聞】2021年3月5日

### 大規模な再貧困化の防止には

貴州省赫章県は全国で最後に貧困から脱出した県の1つだ。同県河鎮彝族苗族郷海雀村の文正友支部書記は、ある1つの家が病気で再貧困化しなければ、2019年に貧困脱出ができていたはずだと語り、村人の再貧困化、「返貧」を懸念している。現在全国で2百万人近くに再貧困化の恐れがあるほか、3百万人が貧困ラインの上ぎりぎりで貧困に陥るリスクがあり、この5百万人の貧困化、再貧困化をどうくい止めるかについて様々な提案がなされている。

貧困化の迅速な発見が重要だと言うのは全国人民代表大会代

表で貴州省扶貧弁公室主任の李建氏。ビッグデータ技術を活用し、医療保険、民政、危機管理部门と連携して衣食、教育、医療、住居の安全に関するデータに目を配り、再貧困化する人とその原因を把握しようというのだ。

全国人民代表大会代表で、雲南省昭通市の郭大進市長は、村の幹部や政府委員、党委員による個別訪問などもリスク予測には極めて重要だと述べている。

【中国新聞網】2021年3月7日

### 教育年数の上昇が意味するもの

今年の政府工作報告で第14次五か年計画の主要目標として、質の高い教育制度の確立のため、教育改革の推進、教育の質の向上と対象者拡大プロジェクトの実施、労働年齢人口の教育年数の平均を11・3年に引き上げることが示された。

わが国では国際上の慣例と異なり、男性は16歳から60歳、女性には16歳から55歳を労働年齢人口としている。11・3年といえ

ば、わが国教育制度では高校3年生の第1学期までのレベルである。教育部のデータでは2019年は10・7年であるので、2025年までにあと0・6年引き上げようというものだ。

中国社会科学学院の蔡昉副院長のグループの研究によれば、企業的全従業員の学歴が中学卒から高校卒に上がれば生産性は24%向上、高等専門学校卒に上がればさらに75%、大学卒に上がればさらに66%上がるという。このことから、教育年数は経済の発展に大きな影響を与えることがわかる。

目標は達成可能であろうか。全国政治協商会議委員で中国民主促進会副主席の朱永新氏は、若い労働年齢人口の平均教育年数は高いので、年0・1ずつの引上げは難しくなく、目標を超えることも可能とした上で、今後は高校や大学教育の普及だけでなく、社会人教育や在職訓練に力を入れるべきだと主張する。

【中国青年報】2021年3月7日

2021年5月24日記

## 安易な救急要請

昨年1年間に北京救急センターが受けた電話は157万9474回だが、半数以上が救急医療の必要がないものだった。

3月18日、呼吸困難の通報に救急隊が現場に着くと、患者の家族がタバコを吸いながら、患者は車の中だと言う。「爺さんを連れて病院へ行っただけで、混んでいて車を止める場所もなかったから、戻ってきた。病院まで連れて行ってもらおうと思っ

てさ」。救急隊の呂さんがこの仕事を始めた16年前にはよほど緊急でなければ救急車を呼ぶ人はいなかった。それが今では8回から9回出動してせいぜい2回が急病人だという。

救急医の解如君さんも「個人的な」電話が多いと感じている。ある老婆は息子と連絡がつかないとか、心臓がおかしいなどと言っては1日に3回も救急車を呼ぶ。それでも高齢だけに万一

のことを考えると放っておくわけにいかないのだそうだ。

3月14日男性が慌てて通報してきた。男の妻が全身震え、意識が朦朧としているという。救急医の王超傑さんも出動したが、患者は血圧も血糖値も心電図も異常がない。ほどなく事情がわかった。夫婦げんかで興奮した妻が泣いて震えたのだ。

王医師は夫婦げんかで120番に通報する人に毎週会っている。週に3度も救急車を呼び、隊員にけんかの裁定を頼む人、けんか相手を驚かせようと病気を装った人などだ。

首都医科大学公共衛生学院の王亜東教授は、国は司令員に救急資源の分配権を付与すべきだと主張する。そうすれば限りある資源を本当に助けが必要な人に振り分けることができる。

『北京晩報』2021年3月23日

## 繰り返される受験教育

北京大学や清華大学の学生が教育業界から引っ張りだこなのはインターネットの求人情報か

ら容易にわかる。多くの教育機構が特設欄で他校卒業生とは違う給与を提示。また、卒業生のSNSでも塾講師を務めて儲けたという話が流れてくる。これに対する疑問の声は、両大学に入るために教えられた学生が、卒業後また次の学生を教えるという構図は試験のための教育が内部循環しているだけではないかというものだ。一方、賛成派は自由な職業が選択できる時代、両大学の卒業生を道徳感で縛るべきではないというものだ。

優秀な人材が教育業界に関わることは教育サービス向上の観点から悪いことではない。受験教育に対する懸念は両大学の卒業生の問題ではなく、業界の在り方の問題だ。国が教師の副業を明確に禁止し、予備校や塾が地元の進学校の教師を雇い入れ看板講師にすることができなくなったので、有名大学の卒業生を採用する手に出た。多くの企業が採用で学歴を重視するのと同様である一方で、保護者が学歴を講師の質と同一視している

という事実を物語っている。

高い待遇が両大学の卒業生を引きつけていることは、教師が教育ではなく進学指導の上手さによって評価されているという事実、かつて受験競争で苦労した世代が受験のための教育という現実を認め、喜んで後輩たちに試験の秘訣を授けているという事実、この二つを映し出している。この受験教育一辺倒の状況こそが最も憂慮されるべきだ。

『中国青年報』2021年3月31日

## 親の弱みに付け込んで

「入居しなくても入学できる」と有名校の校名を謳えば売れ行きは好調。今、一部の地方では新設の有名校の周辺の不動産が大変なことになっている。信じて買ったのに学校は定員オーバーで入学できないことや、有名校とは名ばかりで中身は期待外れということもある。

地方が資金を投じ、有名な大学や高校がそこで学校経営をするのは、本来ニュータウン建設に伴う健全な教育資源の投資

で、教育の均衡的な発展を促すものであるが、住宅開発業者の過度な操作が、業者にのみ利をもたらし、保護者を泣かすことになっている。

こうした現象は現代社会が抱えるしつこい病の集合体に他ならない。わが子がスタートラインである小学校中学校から遅れをとらないようにと多くの親が願う。開発業者や販売業者はこの焦る気持ちを利用して煽る。以前からある、学区の良さで家を売るとい手法の進化版だ。

学校はブランドを売りまくり、不動産企業は儲かる一方で、子どもたちや保護者は犠牲になっている。学校を看板にした不動産は焦燥感製造機になっていて、今後さらに多くの社会問題をもたらすかもしれない。

吉林省教育庁は近々、子どもの学校のために巨額の負債を負ってまで家を買わなければならない親たちの精神的圧力を緩和するため、学校を売り物にした不動産販売を防止するための文書を発布する予定である。

〔『新京報』2021年4月2日〕

## 新世代の農民工

2020年『中国新ホワイトカラー消費行動研究報告』では、スポーツジム、植毛、アートメイク、まつ毛エクステ、フェイシャルエステなど自己変革のための消費を「脱皮消費」と名付けている。新世代の農民工も都市に溶け込む過程でこの脱皮消費の担い手になっている。収入の増加と仕事上での必要性がそれを後押ししている。

2019年第3次産業従事者に占める農民工の割合は51%に達している。外食産業の店員、小売業の店員、ブローカーなど、顧客と直接接する仕事は見た目の印象の良さが求められる。

董さんは10年前甘粛省の農村から出てきて蘭州の美容院の見習いになって以来、見た目を向上させるためにかなりの投資をしてきた。その甲斐あってか今では分店を任されている。

中国青少年研究センターの郭元凱研究員は、新世代の農民工

の消費行動と消費文化は都市生活に溶け込みたいという強い渴望の現れであり、「消費式一体化」と定義でき、彼らの消費理念も行動も積極的で都市の重要な消費パワーとなっているという。

さらに郭氏は、彼らが外観の美しさと同様に内面の能力や修練、経験の大切さ、特に都市に溶け込むには社会的交わりやコミュニケーション、精神性、法律意識などソフト面の技能が大切なことに気付き、正しい価値観を確立するよう導くべきと指摘している。

〔『工人日報』2021年4月2日〕

## 農産物ロス思いのほか

食品の浪費が注目されるようになり、「光盤行動」（料理を残さない運動）や「半份菜」（ハーフサイズ料理）など外食産業での取り組みも賛同を得ている。

しかし、農産物の産地での流通とりわけ出荷の過程は見過ごされておらず、産地から半径1キロメートルの収穫と出荷における損失は膨大で、生産量に占める

廃棄率は食糧が7%、11%、馬鈴薯15%、20%、フルーツ15%、20%、野菜20%、25%と先進国に大きく水をあけられている。全国人民代表大会代表で中国工程院メンバーの陳温福氏によれば、農産物のうち、人々の口に入るのは3分の1、捨てられるのが3分の1、残り3分の1の毎年2億トンが腐っているという。

昨年12月全国人民代表大会常務委員会専門調査研究チームは、一部の省では食糧生産過程におけるロス、特に収穫後のロスが大きいと報告した。2019年河北省では収穫後のトウモロコシ13億7千7百キロが無駄になった。原因は栽培技術の遅れ、貯蔵設備の不備、収穫高偏重貯蔵軽視という意識の低さが挙げられている。

全国的な問題への取り組みと農作物の科学的管理に関する知識の普及が求められる。ロスをなくし農家の利益の最大化の実現を図らなくてはならない。

〔『新華社ニュース』2021年4月9日〕

2021年6月7日記

## 母なる川の汚染

豊かな土地と沿岸の人々を育む母なる川は故郷の代名詞でもある。ところが、現在8つの省で進められている中央政府による生態環境保護についての監察で、一部の地方では母なる川が深刻に汚染され、住民が移転すら余儀なくされていることがあきらかになった。

雲南省保山市主城区隆陽区では毎日約4万5千トンの汚水が母なる川、東河に直接排水され、2018年から水質は5段階のランク外、つまり最下位のさらに下の状態が続いている。

湖南省湘潭市では杜撰な埠頭作業により、雨水に流された埠頭の石炭が未処理のまま湘江に流れ、黒い帯を作っている。

「臭くてたまらない」。広西チワン族自治区崇左市百貨大樓周辺の住民は記者に訴える。近所の住民はもう出て行ったという。同市では大量の生活排水が

まだ市の下水道処理システムに組み込まれていない。汚水の集中収集率はわずか6・7%で、全国で最も遅れている。毎日1万トン以上の汚水が百貨大樓の排水ポンプ機場から左江に直接排出される。水は黒く濁って異臭を放つほど。同市麗江路の堤防下でも同様に汚水が排出されている。

監察グループは多くの河川の汚染が企業などによる故意の排出だけでなく、インフラである下水道建設の問題によるものであることを発見した。

汾河の支流である南白石河は黄河の重要な毛細血管であるが、やはり水質は長きにわたりランク外だ。南白石河の汚染は主として東湖水路や九斗水路などに流入する生活排水と農田からの排水だ。清徐県は雨水と汚水の排水管の分流配管工事をしたものの、排水管が地域を網羅していないため、汚水は結局雨水に交じって水路に入る。

長期にわたる不作為、認識不足、責任感の欠如、さらには虚

偽の報告など、監察グループは一部の地方政府には汚染対策の能力も体制も欠如していると、明確に、厳しく指摘している。  
〔新華毎日電訊〕2021年4月27日

## 監視システムは誰が監視する

広東省仏山市のある高速道路出口で違反金を科される人が多く、「電子警察」つまり自動交通監視取締りシステムへの批判が強まっている。システムの濫用、収益目的という疑念や批判には、システム自体を監査する体制がない状況が長期間見過ごされてきた背景がある。カメラの設置場所や設定は誰が決め、多額の罰金はどう使われたのか。

『半月談』の報道によれば、北方の歳入1億人民元ほどの山間のある県では、交通違反の罰金は年間なんと3千万元以上だという。陝西省警察法学研究会の常務理事李祖華氏は、一部の地方政府や交通管理部門にとって自動監視システムが収益の手段となっていると指摘している。自動監視装置による取締りの

特徴は広域かつ大量の違反摘発が可能なことだ。1件あたりの罰金は少額だが、全体の額は大きい。万一間違いがあったとしても、煩わしさや、失うものとする得るものを天秤にかけて、結局妥当性を争ったり、救済を訴え出たりする個人は少ない。結果として不当に責任や損失を負う人が出るのである。

温州大学法学院教授の茅銘晨教授は電子警察の誤認を経験した。交通警察からある交差点で交通違反行為をしたというショートメールが届いたのだが、その場所に行っていないかったので違反できるはずがないと返事をしたところ、交通管理部門の返事は、「異議がある場合は、証拠を出さなければならぬ。その日の行動を記録した映像を交通大隊に提出するのでもいい」というものだった。茅氏は困惑した。公道の監視映像を個人が手に入れるのは難しい。結局この件は、審査の結果ナンバーの取り違えだったことが判明した。

『行政処罰法』は、まだ現行犯での交通取締りしか行われていない1996年に制定されたまま、運用規範に関する文書が出されているだけである。それが問題の根源である。

『中国新聞週刊』2021年第15号 4月29日

## がん治療費はなぜ高い

中国で毎年悪性腫瘍に関わる医療支出が年間2千2百億人民元を超えることが、2019年『中華腫瘍雑誌』のある報告で指摘された。この10年がんの発病率は毎年平均3・9%ずつ上昇してきており、さらに増加が見込まれる。多くの患者とその家族の負担の大きさに胸が痛む。

2016年の雑誌『柳葉刀』でも、中国の肺がん、胃がんをはじめとする患者数の多い6種類のがん患者の年間治療費は平均約6万8千元にのぼるという実証研究結果を発表している。その年の中国人の平均可処分所得は2万4千元にすぎない。

『中国衛生健康統計年鑑2020』によれば、2019年国

公立病院の入院患者の平均医療費は1万484元であるのに対し、肺の悪性腫瘍、胃の悪性腫瘍、急性白血病などの患者は2万元を超え、負担の大きさが見て取れる。

がんの治療費の高さにおいて、薬の問題は見逃げせない。処方薬の治療費に占める割合は、入院治療で37・7%、通院治療は64・6%といずれも主要な支出となっている。そして、中国のがん治療薬市場は2003年の121億元から2009年の405億元、2015年の1千億元と10倍の勢いで伸びている。

新版保険適用薬品目録が3月1日から実施となり、これにより理論上は2021年はがん患者全体で30億元以上の負担減が期待できる。だが、実際に抗がん薬が病院で使われるまでには一定の時間がかかるだろう。現在多くの地域で医療保険政策に基づいた様々な試みがなされている。例えば、雲南省の医療保険部門は衛生部門と連携し、薬品代比率、平均医療費、平均医

療費の増加率などいくつかの保険機関審査における制限項目を撤廃し、がん治療薬等、新しく認可された保険適用薬が病院で使われにくいという難題を解決しようとしている。

『新京報』2021年5月1日

## 放課後を補習時間に戻すな

義務教育の下校時間について昨今論議が絶えない。背景に3時半という下校時間に迎えに行くこと等に苦勞する親たちの切実な訴えがある。これに対し、教育部の責任者は、各地の労働者の通常退勤時間に合わせ、義務教育の全ての学校で放課後延長サービスを実施することで、親たちの悩みを解決すると発表した。

下校時間の繰り上げについては、学校にいる時間が減れば学校以外の時間が増え、学校が早く終われば、その分習い事などに行くだけだとの批判を浴びてきた。学校の学習時間を減らしても、学童の負担が減るわけではなく、家庭の支出が増えるだけだ。そこで、近年学術界からも一般市民からも、在校時間を以前に戻し、長くすべきだという主張が出てきた。

深圳市では3年間の試験的運用の後、市内の全中学、小学校で放課後生徒を預かる無料サービスを推進している。北京市郊外の順義県では小学校の放課後預かりサービスを7時まで延長する政策を打ち出した。また、南京では下校時間を各児童の事情に合わせるという方法を何年も行っている。

しかし、専門家は警鐘を鳴らす。長く学校にいたことが常態化すると、一部の学校ではそれを補習の機会として利用するようになるというのだ。専門家は、近隣の学校が連携して放課後の延長サービスを時間に各学校の特徴を生かして様々な過ごし方を提供し、子どもたちが選べるようするという体制を提案している。

『半月談』2021年第8号 5月6日

2021年7月21日記

## 医療機器値下がりで新たな問題

心臓冠動脈ステントは、生命の救い手として崇められながらも、1万元以上もの高価格は庶民には恨めしいものだった。価格を抑えるため、昨年11月5日に国家は集中買付の入札を行い、平均価格は1万3千元前後から7百元程度まで下がった。

これで患者は恩恵を受けるが、医師や病院はどう見ているのだろうか。品種や数量は全国的な需要を満たすのか。さらに、品質に影響はないのだろうか。

『中国心臓血管健康と疾病報告2019』によれば、中国大陸地区でのPCI（経皮的冠動脈形成術）症例は2009年の23万件から2019年の104万余件へと増加している。2019年には冠動脈ステントの販売額は150億人民元にも上った。

患者の多さが高価格のステント市場を生み出し、命の綱の医

療機器に複雑な色彩を与えた。業界内では価格競争ではなくキックバック競争の様相と囁かれている。

心臓医学専門家の胡大一教授はステントの急性心筋梗塞に対する効果が根拠なく課題評価され、まるで心筋梗塞を予防する神器のように扱われていると懸念を示す。多くの医師が冠動脈狭窄の程度に応じてステントを患者に勧めるが、もっと適切な技術がある場合もある。一方で、多くの体内に金属を入れることを望まない患者には、ステントほどの効果が望めないのに薬剤コーテッドバルーンが使われている。こちらは入札外品目のため、消耗品も含めて2万元から3万元の費用をとれる。所謂儲け損ねた分を別で取り返すというわけだ。

胡大一教授は「根本的な問題は病院の経営システム問題が解決されていないことだ」と指摘する。病院が患者からの医療費収入だけで業績を上げ、病院設備を維持、拡大でき、職員の給

与も賄えるように、かつ医師が業績や手術件数などで正しく評価され、個人の努力が給与に反映されるように改革されなければ、彼らは他の手段を使わなければならない。

中国医学科学院阜外医院の楊偉憲副院長は、価格を抑えるなら1つの製品だけでなく医療消費財の全体の価格を抑えるべきだと指摘する。

これらの声に国家医療保険局、医薬価格招採署の董朝暉署長は、これは総合的施策の問題であり、医療機構の剰余金の内部留保を認める改革とセットで、病院や医師に利益をもたらすことを期待していると述べた。

（央視新聞アプリ）2021年5月23日

## 贅沢自慢の裏にグレーな商売

インターネットで個人が豪邸や高級車、ぜいたく品を公開する動画や画像が多く見られる。「30歳にはマセラッティを運転する女性になりたかったが、27歳で我慢できず買ってしまった」とか「6月1日ランボルギ

ーニで契約書にサイン、子どもの日の自分へのプレゼント」など若者が富裕ぶりを表す記事があふれている。

記者はその多くの内容が単に車の前でポーズをとるような単純なものでないことに気がついた。ある若い母はベビーカーの横で赤ちゃんを抱き、2千万円はするマクラーレンP1GTRの前で「とうとうベビーカーを手放せます」と書き込み、別のブロガーはフェラーリRomaの運転体験のショート動画で、「女性ドライバーに最も友好的な車」と言っている。実用性や感想などが加えられているのだ。

若くして富を手にした人、多くのフォロアーが「羨ましい。どうして成功したの」と書き込むが、努力して昇給したとか副業をしたというだけで、それ以上の詳しい回答はない。

関係者の話では実は彼らは普通の人だと言う。虚荣心からやアクセス数を稼ぐため、あるいは商業的な目的やグレイゾーンの目的で、インターネットの世

界で富裕ぶりを披露することは長い間行われてきたし、そのニーズもある。そして彼らに安価でそうした画像や動画を制作するための素材を提供するサービスも充実してきた。

ネットモールのタオバオでは10ギガの素材一式が19・8円で買える。中身は動画、画像、記事の原稿、領収書や契約書などである。中には「名場面」というフォルダがあり、スターや各界の名士の動画や画像が入っている。どれもパーティーやイベントで至近距離で撮られたもので、まるで同じテーブルを囲んだり仲間で記念撮影をしたりしているように見える。

こうしたサービスはますますグレードアップしているようだ。会員になれば毎週更新されるクラウドサーバーの中の素材を使えるサービスや、契約書や領収書に自分のサインを入れられるサービスもある。解像度も上げられるし、編集で自身の映像や音声を含み込むこともできるのだ。

『文匯報』2021年6月5日

## 古文書を救うには

国は2007年から古文書保護計画を実施しているが、今なお全国で多くの古文書が保護を待っている。一部では虫食いや劣化、カビ被害などが深刻で数冊が固まり煉瓦のようになっていくものや、積み上げられているだけで整理も分類もされず、解説はおろか、触れることもできない死に体の書物さえある。

歴史の大河の中口承伝承は文献の記録にはかなわない。漢代の孔府壁中の書の発見や晋代の汲冢書の発見、清末の敦煌文書の発見など従来より多くの重要な発見が歴史の姿や中華民族文化をより浮き彫りにしてきた。古文書の保存、保護には、全く人気のないこの学術部門に如何に人材を継続的に供給するシステムを構築できるかが鍵になるだろう。実際この分野では人材が不足しており、高度で専門的な人材はさらに不足している。大学では人気がない学科の

中のさらに人気のない学科だ。こんな学科を専攻したが最後、古書の中で冷たい腰掛に座る羽目になるというのだ。選拔システムから待遇改善に至るまでそうした懸念を払しょくし、勇気のある若者が仕事や研究に没頭できるようにする必要がある。

『光明日報』2021年6月6日

## 普通科職業科比率の衝撃

北京市海淀区に住む、中学3年生の息子を持つ解さんはこのところ焦りを感じている。原因は2つ。一つはWeChatに送られてきた情報で、教育部は高校の普通科と職業科の比率を1対1にすることを決めたというニュース、もう一つは息子の模試の結果が海淀区約2万名の受験生中、1万6千番だったことだ。つまり息子は普通科高校に進学できないかもしれないのだ。

同様に焦っている親は少なくない。大学受験が戦場ならば、高校受験の段階で銃を持って参戦する資格も半分は失われるのだから、高校受験は大学受験よ

りも熾烈なものになりかねない。北京市教育委員会のスポークスマン李奕氏は北京では大幅な高校の改編は必要なく、若干の定員増加で教育の発展を図れるだろうと述べた。

『全国教育事業発展統計公報』と国家统计局のデータを見ると、この5年、高校普通科と職業科の比率は5・8対4・2(5・9対4・1の間にあり、大きな変動はない。また省別にみても調整が必要な省はごく一部である。

多くの保護者の焦りの背景にあるのは長く続く「学歴重視、技能軽視」の呪縛である。中国教育科学研究院の儲朝暉研究員は、現在は高学歴でも適切な就職先が見つからない就職難がある一方で、製造業などは人材不足に見舞われており、これらを解決する道筋は職業教育を魅力のある進路として育てていくことであるとした上で、そうすれば「焦りはやがて自然に緩和されるであろう」と述べた。

『中国青年報』2021年6月7日

# 陶々俳壇

兼題 「冬銀河」「今」

バイク停め流すユーミン冬銀河 松島一三四

◎正堂 冬銀河の美しさにユーミンを流す。バイクを止めてしばし見上げる。

今月で消える煙突初時雨

◎明良 昔はあちこちにあった煙突も姿を消して風景が変わり世も変わり。

子が病めば更け行く夜半の冬銀河 矢野一弥

◎明良 振り返り見ればでしょうが、当時は夢中だったと思います。

◎若杉 子育ての母の苦勞が身に沁みる。ふるさととはすこし歩きて冬銀河

◎明良 都会の喧騒から逃れられる故郷の美しさでしよ。うか。

湯豆腐や貧乏神を追い払う 大内善一

◎正子 湯豆腐の湯気や温かい味わいが伝わってきます。

冬銀河白寿の母と愛でにけり

◎正堂 親子で窓辺に寄り冬銀河をしばし眺めてあきない。

薄雲の切れ目を飾る冬銀河 瀬崎明良

◎紅杓 冬銀河は凜と輝き生き生きとしている。しかし薄雲がかかると透明度は低くなり写真撮影などには時間がかかる。薄雲の波状攻撃の切

れ目にはきれいな冬の天の川などが現れるが輝きが一層増して美しく見えるのであろう。

君もまたそこに入るや冬銀河

◎一弥 若い二人だけでない老人の君。

ゼミ打ち上げの我待つ母や冬銀河 日野正子

◎由紀子 怖いもの知らずの若き頃、大学のゼミの打ち上げで遅く帰宅した我を待っていた母の姿。この句はどこか冷めたような客観性があるが、それは作者が当時の気持ちで詠んだものではなく、長い年月を経たことで母の気持ちを理解し、自責の念を込めて詠んだからではないだろうか。当時は、いつまでも子供扱いされることへの苛立ちもあっただろうが、子を持つ親の気持ちは今なら分かる。「冬銀河」が母への想いをいっそう深くする。

末枯の庭に色差す今朝の菊

◎明良 菊はいつまでも残ってくれて花を添えて。

今はまだむれてさみしき冬かもめ 佐藤若杉

◎仁哉 冬の季節、群れる鴨の淋しさが特に感じられる態が良く出ている。

うすぎりの河豚のさしみの夕餉かな

◎善一 河豚刺は薄いほど美味しい。それを4〜5枚重ねて食べる味は格別である。

青空へ炎に似たる曼珠沙華

◎善一 曼珠沙華の華やかに燃えるようなさまは、まさに赤い炎のように、青空の下に輝いている風情は美しい。

水車秋を廻して日もすがら

◎正子 のどがです。

冬銀河南の空の玉手箱

柳原仁哉

◎京

冬の浜波黒く来て散る白さ

◎由紀子 冬の浜にじっと目を凝らして波を観察している作者。何を思い見つめていたのか。闇から黒い波が寄せて来て、浜辺に散るとき白く泡立つ様は夜目にもはっきりと見て取れる。自然の深みにいる作者を感じる秀句である。

うそ寒や駅で待つ間の空つ風 橋本紅杓

◎善一 単線の古い駅舎で汽車が入ってくる間、空き間風がヒューヒューと音を立てて入ってくる。その様子が偲ばれる。

屋根叩く木の実の音や秋深し

◎一弥 風強し。田舎の家を思い出す。

長野先生のやさしさ笑みや冬銀河 上野京

◎由紀子 長野さんは陰日向になり陶陶句会を支えてくださいました。

冬銀河ふるさと阿蘇に手を合はせ

◎由紀子 近年、熊本は災難続きだ。早い復興を祈る。

さよならは今は言はない冬銀河 馬場由紀子

◎一弥 年に関係なく銀河は夜空にあり。

腰に貼る湿布ひんやり冬紅葉

◎若杉

## 【句作のヒント】

初めて俳句を作ったとすると、5・7・5のリズムに囚われすぎて標語のようなものを作ってしまうという例は多く見られる。これを回避するためには、5・7・5を一気に詠もつとせずどこかで区切るようにしたら案外上手くいくことがある。

# 陶々俳壇

## 兼題 「除夜」「人」

明月や明かりさしくる庭木立 橋本紅杓

◎正堂 宗祇が古今和歌集の伝授を受けるため、全国にただ一人古今集に通じた歌人岐阜県郡上市大和町篠脇城主「東常縁」を訪ね、八幡町の庵に住み、伝授を受けた故事あり。常縁の和歌に「秋風になびくとみれば呉れ竹の葉分けに秋の月ぞもりくる」がある。この句は正にこの和歌に通ずる明月の庭の景をつかづことがでる。

◎一弥 広々とした庭にとくく月かな。

松落葉交じり始める掃き掃除

◎三三四 俳句を嗜むにあたり身の回りの小さな季節の変化に敏感でありたい、と改めて感じる一句です。

貧すれど鈍とならずや年送る 大内善一

◎明良 心意気と鈍の字が面白い。  
●三三四 あやかりたい。

冬の雲自由に行き来してをりぬ

◎由紀子 人間の不自由さに比べて空の雲はなんと自由なのだろう。コロナ禍にあるだけに、雄大な自然への憧憬を感じる。

三面鏡独居の秋思折りたたむ 伊藤正堂

◎正子 不思議な空間です。慎み深さが感じられます。この「時世」「独居の秋思」はそここにありそうですが、鏡、それも三面鏡を前にとあれば女性の姿でしょう。何を映し何を思うのか。しばしの黙考ののち、彼女は静かに三面鏡を閉じて立ち上がります。美しい動作に人柄が

◎由紀子 詩情豊かな作品です。単純な行動を「秋思」の季語が百倍にも千倍にも豊かなものにしてくれます。作者の心情を具体的に表す言葉は使われていないにもかかわらず、人間の深みに触れている佳句だと考えます。このような句を目指していきたいと思いを新たにさせられた一句でした。

断捨離の断を残して除夜となる

◎善一 断捨離の「断」は仏教語で「煩惱を断つ」とあり、「断」つまり煩惱を残したまま今年も除夜を迎えてしまったということか。

除夜に謝す我幸せに過し日々 瀬崎明良

◎正堂 過ぎゆく除夜に、この一年を幸せに送れたことを感謝で過すことは、今年の幸福である。

音に酔い歳を数える除夜の鐘

◎一弥 ようやく生きてこれた自分に感謝しましょう。

掃除終え除夜の汽笛にする蕎麦 日野正子

◎三三四 順番を追っているところが気になりますが、大掃除を終えて年越し蕎麦を啜る、そこに聞かせるのが除夜の鐘ではなく汽笛、というのがおもしろい。作者は港の近くにお住まいなのでしょう。汽笛は、意外と遠くまで聞こえるもの。煩惱を汽笛に乗せて遠くまで流し去るというのもありですね。

万両の実赤くして鳥を呼ぶ

◎正堂 家の庭に万両が赤い実を付けているが、時を移さず花びんに差すとか、仏壇の供花にするとか、鳥が来ないうちに取ることである。昨年はすっかり鳥に食べられた。

年一夜己がいびきを聞きとがめ 矢野一弥

◎明良 聞きとがめの思いは何でしょう。疲れて人懐かしき雑炊なり

◎由紀子 疲れているので体によさしい雑炊をいたぐ。いつも一緒に食する人が今日はいない。雑

炊の温かさに物足りなさを感じてしまったんだろう。

通夜帰りあいつと分かつ熱き酒 松島三三四

●明良 亭主白、先日のあの人がなくなった？

錦糸町馬券踏まるる夕時雨

◎正子

みづうみの漣やまず北風 馬場由紀子

◎正子

三たび病む聖夜の母に羽根透けて

◎三三四 作者は病を得た母親に付き添っている。人々が楽しく集うクリスマスの夜、母親は静かな寝息を立てている。安らかな寝息が、羽根を持つ天使のように思えて凜然とする。そのまま羽ばたいてしまわないよう、聖夜の祈りを、下五が「こ」で終わるのが気になりましたが、寂しくなかなけない句が「聖夜」の清らかさに美しくまとまっている点に魅かれていたきました。

## 【句作のヒント】

今回の句会で埋もれずには惜しいもう一句を紹介。

蹲の一滴冬天を広げけり 正堂

なんと繊細な感覚なのだろう。「冬天」がたなめるのではなく、「広げ」ているという、作者独特の感性から生まれた詩情に魅了された。句会のメンバーの意見にも「蹲に落ちた滴の音。波紋が立ち空気が動き、冬の空が広がったのだ」とあった。

読み方としては、「蹲の一滴」まで一気に読み、「冬天を広げけり」を5・5のリズムで読むのがよい。変則的ではあるが、小さな水の一滴が大きな冬空を揺るがせるようなパラドックスにはそのくらいの揺らぎがあってもよいのではと思う。

お年をあげるのには憚られるが、正堂さんは確か卒寿と言われていたように思う。詩情というものを若さで語るものが多く見受けられるが、この句でも分かるように詩情は決して年齢に邪魔されるようなものではないのである。正堂さんを拝察するに、詩情とは自分に甘えない生き方から生まれるのだと信じてやまない。

# 陶々俳壇

## 兼題 「寒木瓜」「灯」

鎌一丁寒暮のひかりあてて買ふ 伊藤正堂

◎若杉

お百姓さんと思うが、自分の鎌をいつもよく手入れしているだろう。今年の暮れの寒い中、また同じようによく切れる鎌を新調しようと光を当てて慎重に選び、買う姿が立派である。

◎三三四

実家は農家なのだが、亡父は農具をいつも丁寧に手入れしていた。子どもの頃は年の市が立ち、農具もそこで買っていたと思う。見たわけではないが、市に出された鎌を手に取り、冬の日暮れの光の中で品定めしていたであろう父の姿が彷彿とした。懐かしさとともに、農民の魂が感じられた。「寒暮」という語の選択もすばらしい。

◎由紀子

農に生きる作者の崇高な姿が浮かび上がる。この一年惜別多き年の暮

〃

◎仁蔵

一灯のともしび寒き夜を照らす 佐藤若杉

◎弥

一灯のありがたさが、目に写る。

〃

ああうれし一日寒木瓜見て暮らし

〃

◎正子

確かにこのような気持ちになります。

寒木瓜や親子庭師の手入れ遅遅 大内善一

◎明良

素晴らしい子どもさんをお持ちです。木瓜の植わった冬庭の手入れに職人と呼ばれた。緑がなく木瓜の赤が際立つ庭に、親子の庭師は黙々と鎌を振るうが、職人のこだわりか仕事は丁寧で仕上りはゆっくである。時折親の庭師が指図し、子の庭師が言葉少なにそれに倣う、といった景が

浮かんでくる。「遅遅」からは仕事の丁寧さが感じられる。

風花やたら踏む子にまとうごと

◎正子

はじめ「たたら」を「ふじ」かと思ったのですが、調べると「空足を踏む」という意味だと知りました。しかし、「子」との性がいいのかどうか疑問が湧いてきました。

◎三三四

たたを踏んでいるのは、不機嫌なのか何かねだっているのか、あるいは雪がうれしくて小躍りしているのか。そんな幼子をあやすまじに雪が舞っている、と読んだ。「こと」はストレートな感じもするが、幼子を包むまじに雪が舞っているという描写に相応しいと感じる。

松の影庭の灯見える寒の夜半 日野正子

◎善一

寒のさむい夜、庭の灯りに松を照らすその影が、より一層寒さを増している感じがよく表れている。

◎三三四

「灯」でういう景を詠みたいという試みたのだが、うまくいかなかった。なるほどの一句。

初春を駅伝美脚駆け抜ける

◎正堂

出場選手のいずれもが若さあふれる力走であったが特にゴール寸前の番狂わせの一番は正に美脚が駆け抜けた。

◎明良

黒豆の艶に目出度さ映りをり

◎仁蔵

おせち料理の多き中にも黒豆の艶が最高との作者の気持ちが十二分に楽しく表現されているのが素晴らしい。

◎明良

艶やかな黒豆を煮るのは難しい。

境内に年を越えたる常夜灯 瀬崎明良

◎正子

初詣客がくるような寺ではないように思える。誰からも忘れられている境内には常夜灯だけが年を越している。作者の心象を投影している。

寒木瓜を動けぬ母に届けし日

◎正子

親を看取った経験のある方なら、晩年の親と過ごした一コマがフラッシュバックするといった経験を

お持ちではないだろうか。悲しみを甘受しつつ母の面影を確と脳裏に刻む。

コロナ禍で始まり暮れし2020年 橋本紅杓

◎正堂

「コロナはあらゆるものに悪影響を及ぼしている。」

長野より塩加減良き野沢の菜

◎三三四

野沢菜は信濃の名物、手作りのしよっぱ過ぎず薄過ぎない漬物が宅配便で届いたのだろうか。あるいは信濃は作者の故郷か。他郷の者にも郷愁を感じさせる一句。

◎正堂

急坂の住宅街を灯油売り 松島三三四

◎明良

高台の生活には頼もしい灯油売り。住宅地の冬の一景。人々の営みの中に四季を感じる面白い句。

天地の集まるを喰う煮大根

◎明良

昔嫌いだっただ根が好きになりました。冬ならではの至感です。

◎正子

寒木瓜や一重咲きと子が告ぐ 矢野一弥

◎若杉

「告げられて知る寒木瓜の一重咲き」としては？

ふるさととは豪雪警報汽笛鳴る

◎紅杓

ふるさとのことが気がかりで仕方がない。汽笛が郷愁を掻き立てる。

寒木瓜を真中に置きてテレワーク 柳原仁哉

◎由紀子

テレワークが日常となった昨今の様子。

寒木瓜や棘の太きをもてあまし 馬場由紀子

◎紅杓

寒木瓜は冬に華やかさをもちます花でその枝先に棘があり生垣に利用されるが、蕾の頃や咲き始めの頃は花も小さく棘ばかりが目立ち、それがあたかも持て余すように見える。俳諧味も覚えまた春への期待が高まります。

ゆりかごでありし母の背春隣

◎明良

年の瀬に何かと母を思い出します。

# 2021（令和3）年度 役員・顧問・諮問会委員名簿

会長 矢野一彌（留）

最高顧問（50音順）

古海建一（留）

三原朝彦（留）

顧問（50音順）

成田正路（再）

藤原作弥（留）

八島継男（留）

外部顧問

武田勝年（再）

学術顧問（50音順）

岡田 実（留）

加藤聖文（再）

河合弘之（留）

高原明生（再）

田畑光永（再）

村田忠禧（再）

矢吹 晋（再）

常務理事（会長不在時の事務代行順）

岡部 滋（留）

（事務局長）

藤沼弘一（留）

竹前栄男（再）

理事（理事就任順）

佐野吉秀（留）

日野正子（再）

姜 晋如（再）

原田克子（再）

古 閑 哲（再）

瀬崎 明（留）

松重充浩（再）

清水與二（再）

（業務執行理事）

渡辺澄江（新）

常任監事

藤沼哲朗（再）

監事（監事就任順）

藤川琢馬（留）

塚原美津子（新）

諮問会委員（50音順）

秋元勇一郎（再）

井出亜夫（留）

北野雅教（再）

小林 功（再）

佐藤嘉信（留）

澤村 宏（留）

新宅久夫（留）

鶴留エマ（再）

村田嘉明（再）

# 2021（令和3）年度 常任委員会 委員長・副委員長・委員名簿

○環境委員会（10名）

委員長 姜 晋如

副委員長 牛木久雄

委員 伊大知重男 澤村 宏

中村陽子

福島靖男 橋本公佑

星野一文 藤木英夫

○国際交流委員会（13名）

委員長 姜 晋如

副委員長 八島継男

委員 岡田 実 瀬崎 明

木村正文

橋本 敏 竹前栄男

福島靖男 畑尾成道

村瀬 廣 藤井 毅

村田嘉明

○講演委員会（11名）

委員長 松重充浩

副委員長 日野正子

委員 井出亜夫

古 閑 哲

高橋 昇

佐藤建吉

北野雅教

杉山秀子

西 忠雄

村田忠禧

○広報委員会（10名）

委員長 原田克子

副委員長 田畑光永

委員 朝 浩之

志村照彦

瀬崎 明

村田嘉明

○東北委員会（10名）

委員長 藤沼弘一

副委員長 渡辺澄江

委員 加藤紘捷

新宅久夫

鈴木重治

寺西修司

近藤直利

神保 達

瀬崎 明

野木信洋

○財政委員会（9名）

委員長 矢野一彌

副委員長 岡部 滋

委員 井出亜夫

古 閑 哲

小林 功

清水與二

近藤直利

竹前栄男

# カホ会通信

## ◆10月1日から活動再開

・長らく東京都の緊急事態宣言に伴う協会の活動の停止をお願いしてきたが、10月1日から協会の各常任委員会や同好会の活動も再開され、また外部からの貸会議室の申し込み等活気が戻ってきた雰囲気がある。協会としては、参加者には「検温」「マスク着用」「手指消毒」「3密回避」をお願いし、感染防止の協力を呼び掛けているところである。

## ◆善隣会館の経年劣化の件

・この会館は、今年は建築後57年目を迎え、耐震工事は6年前に「耐震基準適合」の「耐震改修済」証を受けているが、突発的に水漏れなどの不具合が発生している。その2つの例をご報告したい。

①発生日は8月5日。発生場所は3階男性トイレ。状況は水が止まらない。原因は制御センサーの経年変化で寿命が来たというもの。大事には至らなかったがヒヤリとした。

②発生日は10月6日。発生場所は3階1テナントさんの天井に1メートルくらいのシミが広がった。原因は外壁のパテ剥がれらしいということでお究明中。対策の仕方次第では経費が大きく異なると思われる。

（事務局長 藤沼弘一）

## 会員だより

### ◎新会員

#### 〈正会員〉

呉東富氏 渋谷扔州氏  
杉山篤氏 小野寺悠子氏  
渡辺貴美子氏 中西景子氏  
他2名（非公開發希望）

### ◎訃報

中村 肇氏（83歳）令和3年2月19日逝去  
岡 和良氏（93歳）令和3年3月1日逝去  
佐瀬 恒氏（77歳）令和3年3月3日逝去  
田中春夫氏（91歳）令和3年5月2日逝去  
橋本秀樹氏（88歳）令和3年6月9日逝去  
杉山静夫氏（95歳）令和3年7月27日逝去  
謹んで哀悼の意を表します。

## 同好会だより

### 〈一石会（囲碁）〉

新しい会員を誘い例会を再開します。

### 〈謡曲会〉

松木千俊先生のお稽古を徐々に始めます。新たな会員を募集しています。

### 〈俳句会〉

コロナ禍では「自宅で俳句会」と称して通信での句会をしてきましたが、並行して対面での句会も再開します。

## みんなの写真館

### 二条城のイチョウと男の子

（表紙）

2020年11月に、世界遺産の二条城の紅葉に憧れて訪れました。広大な城内にイチョウの一角があり、散った葉の様子が写真スポットになっていました。大勢の観光客の中、なぜかこのかわいい男の子が一人、夢中でイチョウの落ち葉を楽しんでいて、思わずシャッターを押しました。（姜晋如）

### 「京九鐵路」開通記念特別列車乗車記録（1996年10月29日～11月10日）（表4）

香港の祖国復帰を記念して、軍備費の2分の1を3年かけて2398キロの北京から九龍に至る新線「京九鐵路」開通式典に来賓として、日本国際貿易促進協会に招待状が届き、10名の推薦枠の中に小生が推されました。早速日本側団員は北京に出

向き今回の特別列車の主催団体の「中華全国工商連合会」を表敬して、団長の胡德平氏（1942年延安生まれ、第一副主席・中共中央委員会主席を歴任、胡耀邦総書記の長男）に接見いたしました。

その後招待単位の中央政府鉄道部を訪問し劉志軍部長に面談し、今回の新線乗車の招待に対し感謝を述べました。

鉄道部招待の開通記念特別列車の団長は胡德平氏で、新路線は北京西駅を出発して途中主要都市に下車宿泊して、地元政府の投資案件の説明会に参加しました。

聊城・商丘・阜陽・九江・廬山・共青城市・南昌など最終香港九龍駅の14日間の列車の旅で、特に印象深かったのは「共青城市」に途中下車して、胡耀邦総書記が改革開放半ばに急死され、鄧小平氏が業績を称え、特別に批准したと言われる、陵墓の参拝でした。（新宅久夫）

## 2021年11月の行事予定

- 9日(火) 15:30 謡曲会(松木先生お稽古)
- 10日(水) 13:00 俳句会  
兼題「龍の玉、湖」及び当季雑詠から5句を投句
- 11日(木) 14:00 公開第11回オンライン講演会  
「中国・アジア人づくり46年」  
杉山定久氏(南富士株式会社 代表取締役会長)
- 17日(水) 15:30 自衛消防訓練(会員・テナント参加)
- 18日(木) 11:00 一石会囲碁大会
- 19日(金) 14:00 公開【善隣中国塾】  
テーマ「ドイツ事情と中国」  
塾長:矢吹晋氏(横浜市立大学名誉教授、当会学術顧問)
- 24日(水) 14:00 公開【善隣古海塾】先着20名まで、ただしzoom参加あり。
- 25日(木) 14:00 公開第12回オンライン講演会  
「日中経済関係の回復と展望——国交正常化40周年から50周年への交流実務の視点から」  
十川美香氏(日中経済協会前理事)

☆オンライン講演は、zoomで行います。そのミーティングIDとパスコードは、当会からの配信メールに登録されている方で参加希望された方には、当日1時間前までに、メールにてお知らせいたします。

また配信メールに登録されていない会員・非会員向けには、当日、1時間前から講演終了時間まで、ミーティングIDとパスコードをホームページ(<http://www.kokusaizenrin.com>)に掲載し公開します。

☆ご自宅などでPC環境がなく、オンライン講演会に参加することが難しい方には、5階会議室にてズームの画面を視聴できるようにします。ただし事前申し込みが必要になります(最大20名まで)。

### 11月の会議予定

- |                             |                       |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1日(月) 14:00 講演委員会<br>(zoom) | 17日(水) 13:00 理事会(第6回) |
| 2日(火) 13:00 環境委員会           | 17日(水) 15:30 広報委員会    |
| 9日(火) 13:00 国際交流委員会         |                       |

下線は通常日程に変更あり。



# みんなの 写真館